



社会医療法人 関愛会

社会医療法人 関愛会 創立10周年記念誌

関
愛
10
年
記
念
誌

社会医療法人 関愛会
創立10周年記念誌
2004-2014

10th Anniversary

地域を
支え続けて
10年





SEKIAIKAI
社会医療法人 閑愛会
創立10周年記念誌

2004-2014



社会医療法人 関愛会
の理念

地域包括医療の推進

地域貢献

自己研鑽

社会医療法人 関愛会
創立10周年記念誌

CONTENTS

● ご挨拶

- 社会医療法人 関愛会 理事長 長松 宜哉 01
社会医療法人 関愛会 筆頭理事 増永 義則 03
社会医療法人 関愛会 理事 甲原 芳範 04
社会医療法人 関愛会 理事 城 日出徳 05

● 祝 辞

- 大分県知事 広瀬 勝貞 06
大分市長 釘宮 盤 07
豊後大野市長 橋本 祐輔 08
株式会社 大分銀行 頭取 姫野 昌治 09
社会医療法人 関愛会 元看護部長 見明 敏子 10
社会医療法人 関愛会 元事務局長 幸 龍生 11

● 関愛会の沿革 13

● 運営施設 16

● 組 織

- 医師紹介 25
法人組織図 28
職員名簿 29
職員数推移 34

● 実績推移

- 診療実績 37
代診実績 39
学会等の研究発表 42
論文・雑誌掲載 44
関愛会学術集会 47

● 新聞記事で見る関愛会の10年 50

編集後記 67



社会医療法人関愛会 理事長
長松 宜哉

関愛会創立10周年に際し想うこと～回想を交えて

平成16年4月に医療法人関愛会が誕生し、7月1日から佐賀関町立病院の運営を引き継いだ。それから早10年が経過し、現在にいたっている。

今でも当時、佐賀関町議会全員協議会で、ある議員の言った言葉が耳に残っている。「こんな素人集団に病院を任せたら、5年後には破綻してしまうのは目に見えている」

〈ライフワーク〉

平成13年頃私は50歳を前にして、漠然とこんなことを考えていた。「50歳が来たら、あと医師としての実働は10年、この10年間で一自分は何をするべきだろう。佐賀関町立病院には20年近くいる。後輩も定着してきた。今後の10年間も佐賀関の医療を考えればよい。この老朽化した病院を建て替えるのがライフワークとなるのか。病院は地域医療を目指す医師たちが集う梁山泊のような病院にすればいい。それで自分の役目も終わるだろう。開業も病院の方針が変わればありかな。」

〈公設民営〉

翌14年はすでに合併問題が持ち上がっていた。私は当時の町長に「公設民営」の話をした。具体的なことも言ったが、町長が理解しているとは思えなかった。その後は全く病院の話は役場から出なかった。そして突然病院新築の話。やっていることがめちゃくちゃだと思った。胸の中にはえも言われぬわだかまりが残ったまま仕事をしていた。

〈手を挙げてしまった〉

15年、公設民営の話がだめになり（当たり前だが）、民営化の話が出てきた。受け皿法人を募集するという。その頃私は、前収入役で役場を退職していた幸龍生さんと会っていた。「住民の方たちが、これまで診てもらっている医師にひきつづき診てもらいたいと言っている、先生達がやればいいのではないか」といった話だった。自身のライフワークを考えていた私の立場からすると検討に値する話だった。「住民の支持があればできるかもしれない。」

〈試練〉

流れの中で思い切って手を挙げたが、すでに病院問題は政治物件化していた。我々は何も知らずにその輪の中に入ってしまったのである。そこには当然抵抗勢力がいて、我々の妨害をする。腹の立つことは多々あったが、何とか平常心でいられたのは、地域の患者さんをはじめ、我々を支援してくれる多くの人がいたからに他ならなかった。ちなみに医療法人「関愛会」という名前は私がつけたわけではなく（とてもそんな余裕がなかった）、当時大分県病院協会事務局長を務められていた、故山上秀登氏が法人登記を手伝ってくれていた時に便宜上つけてくれた名前で、気にいっているのでそのまま使用している。

〈身の丈経営〉

平成16年7月1日とうとう佐賀関町立病院は廃止、関愛会佐賀関病院としてスタートを切った。いろいろな苦労をしてただけに、経営方針は身の丈経営。補助金には手を出すな。自立、自律、自己責任。これまで町立病院時代とはうって変わって自由に何の遠慮もせずに仕事ができることがうれしかった。公立病院改革の代表的事例として全国的にも注目されたが、私が強調したのは医療の継続だった。市町村合併等は政治的なことだが、一つの病院を簡単に廃止して機能を変えるということは、傲慢なことで、地域にとってかけがえのない病院ほどその利用者が困ることである。うちの事例は住民視点からみれば民営化という珍しい手法を使って医療の継続を保証できたということにすぎないと考えている。

〈豊後大野市〉

平成21年豊後大野市で大分県立三重病院と豊後大野市民病院の合併問題が出てきた。県立三重病院をなくして豊後大野市民病院に集約しようという話である。当時、三重病院の内科部長、小児科部長の宇都宮先生、飯尾先生、別府先生の3人から相談があった。「今までずっと診てきた患者をこれからも診たいので関愛会の様なことはできないでしょうか。」私は共感し、協力を約束したが、病院を引き継ぐことはすでにできない状況だった。病院はあきらめて、3人の思いを込めた診療所を作ることに決まった。三重東クリニックが生まれた瞬間である。あのクリニックは今でも三重病院を利用していた患者さんが多数利用されている。病院の合併問題に不満をもっていた住民の方にとってはいくらかでも不満のはけ口になったのではないかと思っている。

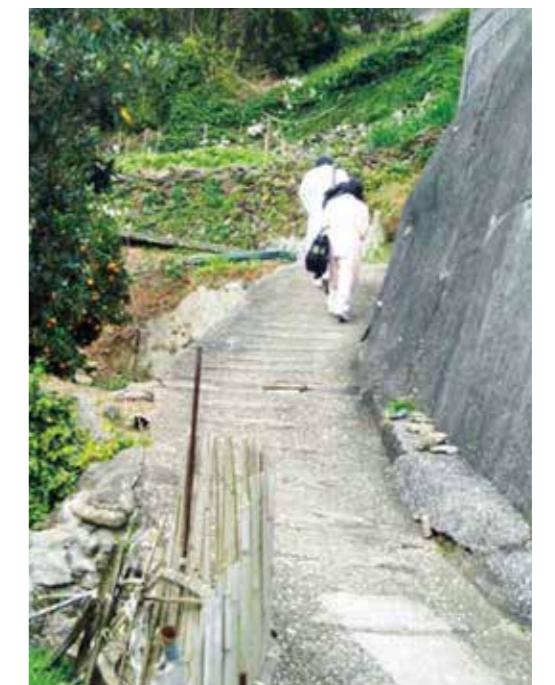
〈これから〉

地域医療が住民不在で捻じ曲げられるのは許せない。そういった混乱が起きた時のひとつの象徴として関愛会を位置づけることも可能だが、それでは一時のあだ花ともいえる。関愛会が今後発展、継続していくためには、地域住民主体の地域包括ケアシステムをモデル的に作り上げ、そこで人材を教育していくことが必要と考えている。民間の自由な発想で大分県の地域医療を支えることこそ、混乱の中から生まれた関愛会の存在意義に他ならない。

〈最後に〉

私自身、最初に述べた実働の10年間が終了を迎えたわけで、今後の自分自身のあり方は現在模索中である。いつまで生きるかわからない。人生設計は難しいものだ。

これまで10年間支えてくれた仲間たち、特に一緒にいてくれた医師をはじめとするスタッフに心から感謝するとともにこれからより一層の活躍を期待したい。関愛会は、私のものではなくみんなのものだ。





社会医療法人関愛会 筆頭理事（佐賀関病院院長）
増永 義則



社会医療法人関愛会 理事（こうざきクリニック院長）
甲原 芳範

法人創設時の思い出、印象に残るエピソード

法人を設立して10周年を迎え、職員数は2倍以上に増えました。現病院ができる以前、約1年半と短い期間でしたが、金山にあった佐賀関町立病院の古い建物で仕事をしていたことを知らない職員が増えてきました。また、その当時の第一世代の職員も少なくなっていました。平成17年12月に新病院へ移転し、その後法人が在宅医療や地域包括ケアへと新たな進む方向が示され、職員の意識も随分変わったのではないかでしょうか。

私が長松理事長に誘われて大分に戻ろうと決心して、自治医科大学を辞めて旧町立病院に赴任したのは平成13年末ですが、まだ当時は病院自体がどうなるのかまだ分からなかった時期でした。合併交渉が始まる前の佐賀関町は、新病院の設計図を作り、現病院のある土地に新築する計画をつくり、国への起債の準備もしていました。

しかし、大分市と佐賀関町との合併協議が始まり、大分市側は公立病院を持たないという方針が明らかになり、佐賀関町が病院職員を含めて病院の処遇を決めることが合併の条件となりました。この時点で病院の民間への委譲が決定的となりました。佐賀関町は、希望する職員を継続して採用すること、新病院を新築することなどを条件に移譲先となる民間医療法人を公募しました。行政も住民のみなさんも病院の存続を希望していたのだと思います。

そこで、長松理事長を中心とするわれわれ町立病院の医師団は急遽医療法人を設立しなければならなくなり、さらに新病院の建築設計もしなければなりませんでした。幸い、顧問の先生方や㈱東洋アンドアソシエイツの瓜生雅勝社長、幸龍生初代事務局長などの支援を受けて、法人の開設や新病院の設計も順調に行きました。その他にも新法人の開設に多くの人が理解をして頂き、賛同して頂いたことは、大変有り難いことと感謝しています。

記憶に残る当時の思い出は、平成16年7月1日の開院式と12月忘年会、新病院の落成式典、新病院への移転作業などです。職員のみなさんや来賓の前で緊張して挨拶をしたひとつひとつの場面は今でも忘れられません。

病院を新たに経営する医療法人は、当然ですが職員がいなければ成り立ちません。民営化後もこの病院に残ってもらった職員の皆さんに本当に感謝します。更に、それによって佐賀関町は大分市との合併協議が始まったわけで、行政も住民の皆さんも感謝していたのではないかでしょうか。

今思えばタイムテーブル通り進んで、いい結果になったわけですが（「予定調和」ともいえるのでしょうか？）、この10年間は眼の前の小さな道を探りながら進んで行ったような印象で、後ろを振り返って見たら広い道になっていました。この道は職員の皆さん一人一人が踏みしめてきたからこそ、この10年間で法人事業が拡張できたと思います。これからは10年先、20年先を見据えたまっすぐな広い道を進んで行けるように、皆さんと一緒に創造ていきましょう。

変化と進化の10年を振り返って

関愛会は設立以来、わかりやすい医療、住民に寄り添った医療を心がけてきました。その結果、佐賀関地区の地域包括医療・地域包括ケアの中心的医療機関として大きく成長しました。

振り返ってみると20年前に佐賀関町国保病院にはじめて私が勤務した時は、ほとんどの患者さんの治療が病院内で完結されていました。医師主導の医療体制であり、そこにはチーム医療の概念はほとんどありませんでした。私自身も一人の内科医として、治療から退院調整まで悪戦苦闘しながら毎日過ごしていました。10年前の関愛会発足時、これからの医療は「チーム医療と病診連携がキーワード」と全体集会で提案した事を思い出します。ただ私自身も当時はここまでチーム医療（感染、医療事故、褥瘡、NSTその他）が発展するとは思いませんでした。病院連携に関しても病院の機能分化が進み、今では他院との連携は必須のものとなりました。社会の変化とともに病院の体制も大きく変わったものです。

佐賀関町国保病院から関愛会への移行時の話ですが、公立から民間への移行という稀で貴重な経験もあり、一生忘れる事はできません。数多くの困難を乗り越えて関愛会佐賀関病院が立ち上りましたが、この10年間の大きな変化は全く予想出来ませんでしたし、関愛会の職員の適応力、順応力が非常に優れていたことが原動力になったのかと思います。「この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか。そうではない。最も頭のいいものか。それは、変化に対応できる生き物だ」（ダーウィン 種の起源）。この言葉が全てとは言いませんが、医療介護行政や病院の体制の変化に関愛会職員の皆様方が力をつくして頑張ってくれたことが大きかったのだと感じます。これからも激動の変化が続くと思いますが、関愛会の理念を目標や共通認識として、力をあわせて困難に立ち向かってゆけるものと信じております。

さて、私が担当している第2ブロックでは在宅医療と地域リハビリテーションが中心となっています。現在3カ所のクリニックと通所、訪問リハビリテーションセンターが連携を取り地域医療、地域リハビリテーションに取り組んでいます。もみの木はその独創的な取り組みで利用者の皆様の受け入れもよく、実際にリハビリの効果も十分にあげている事から高い評価を得ています。訪問リハビリテーションも今後発展が期待される領域だと思います。今後も出かける医療、リハビリテーションに更に力を注いで行く所存です。

最後になりますが、当院を利用して頂いた患者さん、ご家族、地域住民のみなさまの応援や後押しや支えがあり、当関愛会は10年の節目を迎える事が出来ました。これまでの関係者の皆様方のご支援ご厚情に心より感謝申し上げます。そして、今後とも関愛会をよろしくお願ひいたします。



社会医療法人関愛会 理事（佐賀関病院副院長）
城 日出徳

関愛会設立当時の思い出

医療法人関愛会設立より早、10年経過しました。

思い起こせば長い10年であり、またあつという間の10年でした。設立当時は資金もなければ、医療スタッフも必要最低限のぎりぎりでのスタートだったと思います。

設立当時の医師数は8名だったと記憶します。といっても、1名は80歳を超える老先生でしたので、実質は7名でした。仮にその老先生をF先生としますと、F先生は送迎付き（タクシー）で病院に来ていただきました。仕事は薬の処方箋に印鑑を押していただくだけのことでした。それでもF先生にとっては重労働でしたので、診察室の横には先生用のベッドが用意されており、疲れたら休んでいただいてました。

外科医は私一人でしたので（正確には整形外科と外科は天と地ほどの違いがありますが）、外科の患者さんも私が診察してました。当時の診療の中で今でも忘れられない患者さんがいます。その方は40代の女性で右の乳房に“しこり”があると言って来院されました。

診察しますと右乳房は一目見ただけで分るほど腫れていて、触診で10cmは超える程の正に巖のような硬さの腫瘍でした。もちろん、当院では治療できませんでしたので近医に紹介しました。もちろん悪性でしたがその後の経過は不明です。

当時の診療の中で一番大変だったのが当直です。医師は8名でしたが、当直可能な医師は6名でしたので、月に最低5～6回は当直がありました。

スケジュールの都合などで当直が週に3回ということも頻繁にありました。当時まだ若かったO医師にいたっては月に10回程当直していたように記憶しています。“みんなよく倒れずに頑張ったなあ”と、今でもしみじみ思ひだされます。O先生、本当に疲れ様でした。

10年経過して今関愛会は病院以外に7つの診療所、クリニックを運営しています。医師の数は非常勤を入れて20名を超えるまでに発展しました。

スタッフの数も昨年末で300人を超える大所帯となっています。

これから、ますます高齢化、過疎化の進む地域において今後も地域のみなさまに愛され、親しまれる関愛会となりますよう努力を重ねていきたいと思います。



大分県知事
広瀬 勝貞

社会医療法人関愛会創立10周年に寄せて

社会医療法人関愛会の創立10周年を心からお祝い申し上げます。

関愛会におかれましては、平成16年に市町村合併に伴い佐賀関町立病院から医療法人として民営化され、以来、地域の中核病院として病院の新築移転や最新医療機器を導入するとともに、新たな診療所を旧佐賀関町内のみならず県内の各所に開設、さらには複数の社会福祉施設を運営するなど、地域完結型の良質な医療・福祉サービスの提供に尽力され、幅広く地域に貢献されています。

このような取組は、公立病院から民間病院への転換に成功した全国的なモデルとも言うべきものであり、長松理事長をはじめ、役職員の皆様方のご尽力と情熱に対し深く敬意と感謝の意を表します。

近年、医療の高度化に伴い、診断技術や治療が多様化・複雑化する一方、急速な少子高齢化の進展、医師不足や地域偏在などにより、へき地や都市周辺部への医療提供体制のあり方が深刻な課題となっています。

県では、「安心・活力・発展」を基本理念に、県民の誰もが地域で安心して適切な医療サービスが受けられるよう、医師の県内定着や救急・災害医療体制、へき地医療拠点病院による巡回診療等のへき地医療対策の充実など、医療提供体制の確保・充実のため、様々な施策に取り組んでいるところです。

さらに、今後、団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据え、二次医療圏等ごとの医療機能の将来の必要量の推計を行い、その地域にふさわしいバランスのとれた医療機能の分化と連携を推進する「地域医療ビジョン」を策定するとともに、要介護状態となつても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援等の一体的な提供を目指す「地域包括ケアシステム」の構築を推進することとしています。

このように、新しい時代に向けて医療と介護の連携等が求められる中、貴会におかれでは、かねてから佐賀関地域を中心に医療・福祉サービスを一体的に提供する地域包括ケアを推進するとともに、へき地医療を推進する社会医療法人として、へき地診療所への診療応援、代診医派遣にも積極的に取り組まれるなど、在宅医療やへき地医療の充実・強化にご協力いただいていることは、真に心強い限りです。

このたび、10周年という記念すべき節目を迎えられ、今後、更に、地域に貢献する質の高い医療・福祉サービスの提供等にご尽力いただき、本県の保健・医療・福祉の提供体制の充実・強化に、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、関愛会の今後ますますのご発展と、ご関係の皆様方のご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



大分市長
釘宮 磐



豊後大野市長
橋本 祐輔

社会医療法人関愛会の創立10周年に寄せて

社会医療法人関愛会が創立10周年を迎えられ、記念誌を発刊するにあたり心よりお祝いとお慶びを申し上げます。

貴法人は、平成16年4月に医療法人として設立され、前身となる旧町立国民健康保険病院等を引き継がれ、「佐賀関病院」「一尺屋診療所」「高齢者介護施設ひまわり」を開設されるとともに、平成21年11月にはへき地診療の支援充実をめざす中で社会医療法人を取得されるなど、佐賀関地区をはじめ、広く大分市民の安心な生活の確保と健康・福祉の維持、増進に多大なるご貢献をいただいておりますことに対し、厚くお礼を申し上げます。

また、こうして創立10周年を迎えたのも、長松理事長をはじめ関係者の皆様方の並々ならぬご努力の賜であると深く敬意を表する次第でございます。

さて、近年、急激に進行する高齢化や食生活の欧米化など生活環境の変化により、本市におきましても、がんや高血圧、糖尿病、慢性腎臓病などの生活習慣病が増加しており、その対策は喫緊の課題となっております。また、ライフスタイルの変化や生活水準の向上などを背景に、市民の健康意識はますます高まっており、保健医療に対するニーズも多様化、高度化しております。

こうした中、「地域包括医療の推進」「地域貢献」「自己研鑽」を理念に掲げ、常に医療・介護を必要とする方に寄り添いながら、地域の「かかりつけ医」として、患者やその家族のサポートを行う医療ソーシャルワーカーの積極的な配置をはじめ、在宅療養支援診療所による訪問診療や、医歯連携による治療と予防医療の向上に取り組まれるほか、へき地医療拠点病院として代診医の派遣や、大分DMATへの参加など、地域医療の中核を担う法人として積極的にその責任を果たしておられます。

また、旧一尺屋中学校を活用した介護老人保健施設「せきの郷」の開設をはじめ、通所介護や訪問介護、居宅介護支援サービスの提供など、地域の隅々まで行き届く医療、介護、保健福祉の包括ケアの実現をめざし、法人全体で連携しながら、サービスの一体的・体系的な提供に取り組まれていることに対し、改めて敬意を表する次第です。

本市といたしましても、医療や福祉にかかる各サービスを必要とする市民が、明るく安心して暮らしていく社会の構築に向け、諸施策の推進に一層取り組んでまいる所存でありますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、創立10周年の節目を契機に、社会医療法人関愛会が地域の医療、福祉のさらなる充実に貢献されることを念願するとともに、今後ますますのご発展、関係皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたしましてお祝いのことばといたします。

社会医療法人関愛会・10周年に寄せて

社会医療法人関愛会が創立10周年を迎えられましたことに心からお慶びを申し上げます。

長松理事長をはじめ職員の皆様方のご活躍の結果が、今日の関愛会の存在を確たるものにされたものであると感じ入ります。2011年の長松先生の地域医療貢献奨励賞受賞がそのことをいみじくも物語っていると言えます。

佐賀関製錬所病院として開設された貴病院は佐賀関町立国保病院にその形態を変えてからも地域住民の命と暮らしを支えてきました。平成16年の佐賀関町の大分市との合併を契機に医療法人関愛会の運営の下、その姿を一新し、今日の各種の医療・福祉サービスを展開する地域拠点病院としてその役割を果たされておられることに、多大な敬意を表します。

今日、日本の現状は少子高齢化と急激な人口減少という人類史上にも例がない現実に早急な対策が求められています。とりわけ、過疎が進む地域にあっては、その対策が焦眉となっています。

「医療はすべからく地域医療」であるとの言葉に言い表されるように、過疎地域であっても安心・安全な医療と介護が受けられることは住民の切なる願いであります。関愛会の理念である地域包括医療の推進と地域貢献、それを支える自己研さんによって地域社会が守られていることを住民の皆さんは実感されていると思います。

我が豊後大野市の市民病院も産業立病院から出発し、緒方町立病院を経て、現在の中核病院となった経過は佐賀関病院と類似しています。また、県立三重病院と統合した際の病院長を務めていただいた坪山明寛先生は、市から運営を引き継いでいたいた関愛会清川診療所の所長として、地域の方々から信頼が高く、プライマリ・ケアの砦として活躍されていますし、その長年のご功績により、地域医療貢献奨励賞を受賞されたことも、貴法人の歴史に輝きを放つものです。さらに、三重東クリニックも県立三重病院廃止による医療過疎化を防ぐ重要な診療施設としてその役割を果たしてくれています。また個人的ではありますが、長松先生とは竹田高校の同窓生であり、優秀な生徒であられたことも記憶しているところです。

きびしい医療・保健・福祉の環境ではありますが、それ故にこれからは、2次救急の中核病院である豊後大野市民病院と民間の各病院、診療所をはじめとする医療・福祉機関が今以上に連携を取りながら、住民の健康維持増進、予防に効果的かつ適切なサービスが提供されることが求められています。

これからも関愛会の存在が地域の必要欠くべからざる病院、介護施設として、さらに活躍されますことを期待申し上げますとともに、長松理事長をはじめとする全職員の皆様方のますますのご健勝と貴法人のご発展を心よりお祈り申し上げます。



株式会社 大分銀行 領取
姫野 昌治

関愛会結成10周年に際し思うこと～回想を交えて

この度、社会医療法人関愛会さまが記念すべき創立10周年を迎えてられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

平成16年の大分市と佐賀関町との合併に伴い、佐賀関町立病院を引き継ぐ形で医療法人として設立され、以来、佐賀関・坂ノ市地域の中核病院として医療の充実と向上に大きな役割を果たしてこられました。「地域医療を守る」という強い信念のもと、これまで病院運営に携わってこられた長松理事長をはじめ関係者皆様方のたゆまぬご研鑽と情熱に対し、深甚なる敬意を表します。

近年は医療の高度化に伴い、診療技術や治療が多様化・複雑化する一方、急速な少子高齢化の進展、医師不足や地域偏在などにより、へき地や都市周辺部への医療体制のあり方が大きな課題となっております。大分県は全国の中でも高齢化が進んでおり、特に郡部の人口減少に伴うコミュニティの脆弱化は今後さらに進むことが予想され、医療を含む生活機能の確保が難しくなると考えられます。

このような状況の中で、貴会は特に、へき地医療の課題に正面から取り組んでこられ、佐賀関・坂ノ市地域のみならず、竹田地域で医師が不足した際には代診医を派遣し、また、三重、清川に診療所を開設されました。いずれも少子高齢化と医師不足が進む地域での医療確保と健康福祉の増進に大きく貢献され重要な役割を担っていると考えます。また、医師、看護士をはじめとした様々な専門職の知識を活かした「チーム医療」と医療・高齢者福祉サービスを一体的に提供する「地域包括ケア」の推進も地域住民の方から高く評価され、地域にとって欠かせない存在となっています。平成23年に長松理事長が大分県から初めてとなる「地域医療貢献奨励賞」を受賞されたことは、これまでの取り組みが全国でも評価された象徴であると存じます。

私ども大分銀行も地域に根ざした活動に重点を置き、豊かな未来を創るために時勢を持って行動する銀行を目指し、平成26年4月に策定した「中期経営計画2014」を現在実行しております。「感動を、シェアしたい」をブランドスローガンに掲げ、お客さまや地域の方から評価されるよう努力する所存です。今後も地元金融機関として、あらゆるご要望にお応えすることで、微力ながら地域医療発展のお手伝いをさせて頂きたいと考えております。

終わりに、貴会が創立10周年を契機に、更なる地域医療発展に向けたご活躍とご健勝を心から祈念いたしまして、お祝いのことばとさせて戴きます。

社会医療法人関愛会創立10周年によせて

社会医療法人関愛会佐賀関病院創立10周年おめでとうございます。

平成16年大分市と佐賀関町との合併の時、大分市より病院と職員共に引き取れないとの条件が出されました。家のローンがある人、子供の学費にお金がかかる人、母子家庭の人、みんなそれぞれ公務員として定年迄働くとの思いで人生設計をたてていました。

連日の時間外に行われる組合交渉・管理職である私も組合の交渉の行方がとても心配でした。そんな時、副院長の長松宜哉先生が自治医大の先生方と共に、佐賀関の地域医療を守る為、病院存続を決意して下さいました。

暗い、長いトンネルの中、一筋の光明が射し、ほっと安堵しました。

それからは新病院建設に向けて設計から関わる事が出来、老朽化し雨漏りする病院から海の見えるホテルの様な病院へ引っ越しした時は夢の様でした。患者様も3階の特別室から見る朝夕の景色は本当に心癒されました。

官から民へと変わりましたが、殆どの職員が残り、身の引き締まる思いの中でみんなの心が一つになれたのは病院機能評価を受けることだったと思います。毎週行われる全員研修で、隔たりの無い各科との連携が人間関係を密にし、新しい事への挑戦に向け一丸となり頑張るみんなの姿が今も脳裏に焼きついています。

看護部では接遇に力を入れました。看護師、看護助手数名で東京まで接遇研修に行かせて頂きました。「おもてなし」、「させていただく」の心を看護の中に取り入れることができました。全職員研修では外部講師を招き、笑顔の作り方、おじぎの仕方、言葉遣い等々、細やかな気づきを学びました。

町立病院時代は県外出張はなかなか認めてもららず、何かにつけて議会の承認が必要でスムーズに事が運びませんでした。新病院では院長、理事長の決裁で何事もスピーディとなり、仕事も効率的になりました。

評価制度を取り入れ短期目標、長期目標をたて、自己評価、他者評価することでお互い切磋琢磨し、成果をあげたと思います。

42年間の看護師生活の中で、昭和62年の精錬所病院との合併、病棟看護師が交替で1名の退院患者さんの為にタクシーで始めた訪問看護、帰る所のない長期入院患者さんの為に民家を改装して始めた老人ホーム、デイサービス、佐賀関病院の建設にかかわられた喜び…色々なことがありました。その度に良き利用者、素晴らしい方々に出会い、助けて頂き、現在の私の財産となっています。

大分県下各地に根差した医療・介護を展開している関愛会のますますのご発展をお祈り申しあげます。

社会医療法人関愛会
元看護部長
見明 敏子

輝く日々～前夜（地域との連携）

10年という年月で、物事の変化を見極めることは、通常、人間の営みのスピードでは気づかない変化も多い。

10年という長い期間を要して気づく物事の変化もあれば、10年という短い期間で、急速に変化を遂げる物事もある。

社会医療法人関愛会は、後者の部類に属するが、特に医療機関という、複雑な機能を有する組織体で、これほどの「進化」をし続けている事業は、同業種の中では県内のみならず、全国的にも珍しいとされている。

このたび、10周年の「くぎり」を迎えるに比類のない「進化」を遂げた業績は、世情でも、大いに讃えられているところである。

医療、介護、保健事業の、地域包括ケアを目指し実践、事業を推進し形として体系的に関愛会の能力を高め、今までを築き上げることができた要素は、なんといっても、わずか、10年にして300人を超える要員を抱え事業活動を推し進め得たことであり、関愛会の運営能力が大きく成長していることを示していると云えよう。

【エピソードワン】

～乱気流の中で～

今日に至る12年ほど前、この地域で住民の医療、保健、介護を守るために、当時の公立病院に、予算や制度の枠に制約はあるも、地味で目立たない地域活動に従事し、将来を憂え、展望する若い医師団がいた。

彼らは、地域医療を推進することで、住民・患者の信頼を勝ち得てきた働き盛りの若者たち4人である。

しかし、時代は市町村合併議論の最中にあり、大きな課題のひとつに、地域の病院を維持できるのか、という議論が盛んに交わされていた時で、突如、天は過酷にも彼らにとって未知なる政治的思考を要する議論の渦に、巻き込むという試練を与えた。

～そして男たち4人は～

今より12年前の、季節は秋、既に夕闇迫る時刻とあって、少し肌寒さを感じさせる、国道197号線沿線の一軒家、人が集まり始めた。

その日の仕事に、疲れの表情を滲ませて、1人、また1人、「こんばんは」「お疲れ様で～す」挨拶しながら姿を現した4人の男。

室内は、殺風景な打ち放しのコンクリート壁で、その面積は40坪程のワンフロア。

天井に取り付けた蛍光灯の照度は低く暗い壁紙が光を吸い取っているかのように、隅々は薄暗くぼやけていた。

それでも、4人は真剣な面持ちでテーブルを囲むと、すぐに議論へ集中し始めた。

話題は、市町村合併協議に伴う「町立佐賀関病院を、民間機関へ移譲する」との行政方針についてである。

「その受皿として、我々は立ちあがろう、関地域の住民を、そして患者の状態を良く知る我々でなければ、地域の医療は守れないだろう」

责任感溢れる4人の男の議論は将来を見据え熱く語られ始めた。

これが、関愛会の前身「佐賀関の地域医療を守る会」のワンステップであった。

この時期、地域から病院が無くなるかもしれない、と噂されていた佐賀関の医療、その未来に希望の明かりが灯り、将来にわたっての計画が、語りつくせないほど高揚した気分となって、たぎる情熱にわくわくしていた時期でもあった。

メンバーは、リーダー長松医師をはじめ、増永、城、甲原の各医師団4人で結成されている。

～受け皿の意思表示と共に～

残念ながら物事は簡単に、そして理想通り運ぶとは限らなかった。

同会が意思表示をした時には、ご多分に漏れず、幾つかの医療機関が、受け皿を表明している中、いつしか同会は熾烈な受け皿争奪競争の渦中にいたのである。

対抗勢力曰く「世間知らずの若い医師に、病院運営など出来るはずがない」「金も無いくせに」その他、その他など。

～誹謗中傷数知らず…～

吹き荒れる妨害の嵐とともに、地域内にも拒絶反応はあって、男4人に対する執拗な妨害工作

は、深夜の寝所までに及ぶ電話攻勢となって、半年ほどの期間が経過していた。

そして、男たち4人を悩ませる工作は、さらに続く。

高額な報酬、ポストの約束をチラつかせて同会組織の切崩し工作、効果なしと見れば、無法にも屈辱的な噂を流し、マスコミをも利用した。

この時、彼らは幾多の辛酸を舐め、苦しみ悩み、一喜一憂したことであろう。

時間にして一年余に及び、忍耐と苦闘を強いられたのである。

この様な状況の中、4人の男たちが、どの様に考え、結束を守り、行動したのか。

四面楚歌の中、ある時、事態は遂に「明日、受け皿を断念する為、記者会見を開く！」の発言が飛び出した。

「佐賀関の地域医療を守る会」は、追い詰められていた。

平成16年3月、法人認定まであと1週間となっての時点である。

対抗勢力の妨害は、正当な医療法人設立申請手続きに対し、行政機関ヘストップをかけるという暴挙にまで及んだ、

「盗人の様な輩に法人設立を認めることは、税金を捨てる様なもの」

～目前の門扉は開かれた～

4人の男は耐えた。一切の自己主張、反論をせず、無言、無視、無反応、ひたすら患者の、そして地域住民の医療・健康を守るために、一途な信念の表現であった。

また、他に権限も無い、受け皿としての一組織に過ぎない「佐賀関の地域医療を守る会」にできる、無抵抗という唯一の力である。

しかし、平成16年3月30日、申請から3ヶ月にして医療法人設立が認められた。

医療法人「関愛会」の誕生である。

～もう1枚の扉～

しかし、これで終わりではない。施設移譲については、佐賀関町議会の議決という過程を経なければ全ては収まらない。

これまでの批判に耐え、情熱を傾けてきた4人の男、その搖るぎない信念を支えたものとは…。平成16年5月議決の日、議場に設置された傍聴席で、そのことが明らかになった。

開会に併せたように、傍聴席は満席、外の廊下まで溢れる傍聴人が押し掛けている。

患者の皆さん、医療従事者、みんな4人の男のために、佐賀関の地域医療の為に、確かな支援をしてくれていたすべての人たち、その大きな力こそ、4人の男の自信であり、エネルギーの源であった。

そしての傍聴者のまなざしに、さすがの4人の男たちの涙腺も緩んだようだった。

ようやく、関係する各行政機関の懇切な指導、気遣いにより、明確な方向へと進むことができるようになった関愛会は、着実に胎動を始めた。

地域と患者の皆さん支援に守られて、地域の中核病院としての関愛会のために、当時の今日を夢見た12年前の4人の若者たち、その活動で、役割は充分に果たしたと言える。

今後も理事会をはじめ、多くの人材が集う組織として、地域に安全・安心の包括ケア体制が確立されるだろう。

～もう1つの裏話～

驚くことに、受け皿争奪競争の最中、新病院建設計画は同会の議論を終り、既に新病院の設計図まで、出来ていたことである。

その資金計画、公立時代の従事者128人の雇用計画、国費建設補助金申請書などが、先の見えないこの時期に、必要な議論を尽くし、必要な準備がなされていた事実は、4人の男たちが並々ならぬ決意と、情熱をもって決断したことの証であり、今日の結果である。

それにしても大変な勇気と、冷静な判断力が求められたことであろう。

なにしろ、「佐賀関の地域医療を守る会」という無名の組織が、当時、15億円超の債務を、決心していたのだから…。

平成16年7月1日、佐賀関町立国保病院は関愛会佐賀関病院として、移譲された。

社会医療法人関愛会
元事務局長
幸 龍生

関愛会の歩み

-沿革-

陸軍佐賀関衛戍病院～町立病院（前身）

- 大正15年 豊予要塞司令部設置／陸軍佐賀関衛戍病院（90床：古宮）
- 昭和21年 1月 佐賀関健康保険組合病院として開院（20床・古宮）
- 昭和22年 11月 佐賀関町国民健康保険病院として移転開設（50床・迫）
- 昭和37年 2月 移転増床（55床・本町）
- 昭和62年 8月 日本鉱業(株)佐賀関精鍊所病院と統合移転（130床・金山）



日本鉱業(株)佐賀関製鍊所病院（前身）

- 大正6年 9月 精鍊所診療所開設
- 昭和23年 9月 日本鉱業(株)佐賀関精鍊所病院となる
- 昭和34年 2月 移転開設（開設地 金山）
- 昭和62年 8月 佐賀関町国民健康保険病院と統合し廃止



社会医療法人 関愛会

- 平成16年 4月 医療法人関愛会設立
6月30日 佐賀関町立国民健康保険病院廃止
7月1日 佐賀関町立国民健康保険病院、一尺屋診療所、高齢者介護施設ひまわりを引き継ぎ「(医)関愛会 佐賀関病院開設」（113床）、一尺屋診療所、高齢者介護施設ひまわり開設
- 平成17年 12月 新築移転（90床・現在地 古宮）
- 平成18年 10月 こうざき診療所開設
- 平成19年 4月 病院機能評価Ver.5認定
7月 こうざき診療所を「こうざきクリニック」とし、新築移転
こうざきデイケア・リハビリテーションセンターもみの木開設
療養病棟40床を回復期リハビリテーション病棟に変更
- 平成21年 5月 せきあいクリニック開設
有料老人ホームみかんの家開設
11月 社会医療法人認定「社会医療法人関愛会」となる
- 平成22年 9月 三重東クリニック開設
- 平成23年 4月 清川診療所開設
11月 きよかわリハビリテーションセンターもみの木開設
佐賀関病院が大分DMAT指定医療機関に登録
- 平成24年 4月 訪問診療クリニックのぞみ開設
6月 王子クリニック開設
7月 病院機能評価Ver.6認定
有料老人ホーム海風・デイサービス海風開設
11月 せきあいクリニック廃止、王子クリニックと統合
- 平成25年 11月 佐賀関病院、佐賀関診療所に電子カルテ導入
12月 訪問診療クリニックのぞみ廃止、坂ノ市クリニック開設
- 平成26年 4月 介護老人保健施設せきの郷開設
佐賀関診療所内に歯科開設
6月 関愛会訪問看護ステーション開設
10月 社会医療法人関愛会創立10周年記念式典・記念行事開催



あの日の想い出



旧・佐賀関病院の待合(上)と南側(下)

運営施設





**機能強化型在宅療養支援病院
社会医療法人関愛会 佐賀関病院**

管 理 者：増永義則
所 在 地：〒879-2201 大分県大分市大字佐賀関750番地88
T E L：097-575-1172
F A X：097-575-0732
診 療 科：内科・循環器科・呼吸器科・消化器科・小児科・整形外科・外科・
肛門科・耳鼻咽喉科・眼科・リハビリテーション科
入院病床：90 床（一般病棟 50 床、回復期リハビリテーション病棟 40 床）

- 大分県へき地医療拠点病院
- 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設認定病院
- 大分DMAT指定医療機関
- 日本医療機能評価機構認定病院



**機能強化型在宅療養支援診療所
社会医療法人関愛会 佐賀関診療所**

管理者：長松宜哉
所在地：〒879-2201 大分県大分市大字佐賀関750番地91
T E L：097-575-1173 F A X：097-575-1139
診療科：内科・眼科・耳鼻科・歯科



社会医療法人関愛会 一尺屋診療所

管理者：中村朋子
所在地：〒879-2203 大分県大分市大字一尺屋2368番地 1
T E L：097-575-8028 F A X：097-575-8028
診療科：内科



**機能強化型在宅療養支援診療所
社会医療法人関愛会 こうざきクリニック**

管理者：甲原芳範
所在地：〒879-2111 大分県大分市大字本神崎 251 番地8
TEL：097-576-1782 FAX：097-576-1808
診療科：内科

- こうざきデイケア・リハビリテーションセンターもみの木（定員 50名）
- こうざきクリニック訪問リハビリテーション事業所



**機能強化型在宅療養支援診療所
社会医療法人関愛会 王子クリニック**

管理者：織田奈穂美
所在地：〒870-0009 大分県大分市王子町 1 番 11 号
TEL：097-536-6633 FAX：097-536-6635
診療科：内科・消化器内科・心療内科



**機能強化型在宅療養支援診療所
社会医療法人関愛会 坂ノ市クリニック**

管理者：管 聰
所在地：〒870-0307 大分県大分市坂ノ市中央 1 丁目 269 番
TEL：097-574-7722 FAX：097-574-7712
診療科：内科・外科・消化器内科

- 入院病床：19 床
- 在宅医療連携センター



**在宅療養支援診療所
社会医療法人関愛会 三重東クリニック**

管理者：別府幹庸
所在地：〒879-7104 大分県豊後大野市三重町小坂字柳井瀬 4109 番地 61
TEL：0974-22-6333 FAX：0974-22-6341
診療科：内科・小児科



社会医療法人関愛会 清川診療所

管理者：坪山明寛
所在地：〒879-6903 大分県豊後大野市清川町砂田 1877 番地3
TEL：0974-35-3561 FAX：0974-35-2016
診療科：内科

- きよかわリハビリテーションセンターもみの木（定員30名）
- きよかわ介護サポートセンター三つ葉

過去にあった医療施設



(旧) 佐賀関病院 大分市大字佐賀関 882 番地
平成 17 年 12 月に現在の場所に移転



こうざき診療所 大分市大字本神崎 73-1 (現・ゆりかご)
平成19年7月にこうざきクリニックとして現在の場所に移転
※この建物は平成16年末まで「佐賀関の地域医療を守る会」の事務局、及び関愛会開設準備室だった。



せきあいクリニック 大分市小池原 1534-1-1F
平成 24 年 11 月に王子クリニックと統合



訪問診療クリニックのぞみ 大分市小佐井 2 丁目 1-32
平成 25 年 12 月に坂ノ市クリニックとして移転



高齢者介護施設ひまわり

所在地：〒879-2201 大分県大分市大字佐賀関 880 番地1
TEL：097-524-4141 FAX：097-575-2320

- デイサービスひまわり（定員45名）
- ヘルパーステーションひまわり
- ケアセンターひまわり（居宅介護支援事業所）
- 関愛会訪問看護ステーション



有料老人ホームみかんの家

所在地：〒879-2203 大分県大分市大字一尺屋 2554 番地
TEL・FAX：097-575-8222
定員：9名

運営施設



有料老人ホーム 海風

所在地：〒879-2201 大分県大分市大字佐賀関 792 番地1
TEL : 097-575-4800 FAX : 097-575-4803
定員：21名

● デイサービス海風（定員 30 名）



介護老人保健施設 せきの郷

所在地：〒879-2203 大分県大分市大字一尺屋 2357 番地
TEL : 097-575-8800 FAX : 097-575-8801
定員：29名

● 短期入所生活介護せきの郷（定員 10 名）

組
織



H18.8撮影

医師紹介

佐賀関病院



増永 義則

出身大学:自治医科大学
卒業年次:昭和61年
専門分野:内科、腎臓内科、血液透析
専門医・認定医:内科学会認定医、腎臓学会専門医、透析学会専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
趣味:読書
10周年を迎える一言:
 10年間の経験を活かして、これからも佐賀関の医療を守っていきます。



城 日出徳

出身大学:大分大学
卒業年次:平成元年
専門分野:整形外科
専門医・認定医:整形外科専門医
モットー:誠実に
趣味:テニス、野球、囲碁
10周年を迎える一言:
 ロコモに気をつけ、毎日少しづつ運動を!



大屋 譲

出身大学:自治医科大学
卒業年次:平成9年
専門分野:一般内科、小児科、循環器科
専門医・認定医:日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
モットー:いつも安心できるわかりやすい医療を提供することを心がけています。
趣味:読書、音楽鑑賞
10周年を迎える一言:
 今まで以上に研鑽にはげみます。毎日が勉強と反省の日々です。



杉本 剛

出身大学:自治医科大学
卒業年次:平成9年
専門分野:消化器内科、一般内科
専門医・認定医:内科学会認定医、消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、認定産業医
モットー:一灯照隅
趣味:読書、家族サービス、パソコン
10周年を迎える一言:
 皆様の見守り、支え、ご協力のおかげと感謝しております。今後もお役に立てるように努力していきたいと思います。宜しくお願いします。



大屋 ゆり

出身大学:UNIVERSIDADE DE TAUBATE CURSO DE MEDICINA
卒業年次:昭和59年
専門分野:一般内科、消化器科
専門医・認定医:医学博士
モットー:いつも明るく
趣味:ガーデニング、読書、犬の散歩
10周年を迎える一言:
 いつもみなさんに元気をもらっています。ありがとうございます。



黒田 明子

出身大学:大分大学
卒業年次:平成14年
専門分野:一般内科
専門医・認定医:日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本東洋医学会漢方専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
モットー:自求道自行道
趣味:テニス、読書、登山
10周年を迎える一言:
 これからも地域の方が健康で長生きできる生活を支援していきます。



姫野 信治

出身大学:東海大学
卒業年次:平成4年
専門分野:外科、消化器科、救急科、抗加齢医学
専門医・認定医:日本外科学会 専門医、日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医、日本救急医学會 救急科専門医、日本消化器病学会 消化器病専門医、日本消化管学会 胃腸科認定医、日本消化器外科学会 認定医、日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医機構 暫定教育医・がん治療認定医、日本静脈経腸学会認定医、日本抗加齢医学会専門医、日本医師会認定産業医、日本体育協会認定スポーツドクター
モットー:明るく、楽しく
趣味:映画鑑賞、サッカー観戦
10周年を迎える一言:
 10周年おめでとうございます。私が勤務して3年目になります。高齢化が進む地域の中で佐賀関の皆様の健康に役立てるようがんばります。

佐賀関診療所



長松 宜哉

出身大学:自治医科大学
卒業年次:昭和54年
専門分野:一般内科
専門医・認定医:内科学会認定医、プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
モットー:あるがまま
趣味:サッカー観戦
10周年を迎える一言:
 何か困ったことがあれば何でもご相談下さい。これからも宜しくお願いします。



仲野 貴明

出身大学:大阪歯科大学
卒業年次:平成2年
専門分野:歯科
モットー:リズムキープ
趣味:釣り、音楽
10周年を迎える一言:
 10周年を迎える年に歯科が開設されました。これからも地域の方の「口の健康」に貢献できるように努力してまいります。

一尺屋診療所



中村 朋子

出身大学:岐阜大学
卒業年次:平成9年
専門分野:救急医療
専門医・認定医:救急医学会専門医、日本DMAT登録隊員、国際緊急援助隊医療チーム（JMTDR）隊員
モットー:中庸
趣味:星景写真撮影
10周年を迎える一言:
 流転の波を乗り越えながら、前に進んできました。関愛会の良さを大切にしながら、今後もみんなで頑張っていきましょう。

こうざきクリニック



甲原 芳範

出身大学:自治医科大学
卒業年次:昭和63年
専門分野:内科、呼吸器科
専門医・認定医:日本内科学会 総合内科専門医、日本呼吸器病学会 呼吸器専門医、日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医、日本プライマリ・ケア連合学会 認定医、日本医師会認定産業医
モットー:Thinking positive
趣味:フルクローレ、ランニング
10周年を迎える一言:
 「充実した10年だった。」
 10年後も同じことを言いたい。

坂ノ市クリニック



管 聰

出身大学:自治医科大学
卒業年次:平成7年
専門医・認定医:日本プライマリ・ケア連合学会認定医、日本静脈経腸栄養学会認定医、日本医師会認定産業医、日本DMAT登録隊員
モットー:診療に笑いを
趣味:サックス演奏、犬の散歩
10周年を迎える一言:
 必要とされる医療のカタチは刻々と変わります。個別の必要性に応じた安心できる医療を提供します。



橋永さおり

出身大学:自治医科大学
卒業年次:平成12年
専門分野:一般内科、循環器内科
専門医・認定医:日本内科学会認定医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医
モットー:誠実に
趣味:旅行、温泉巡り
10周年を迎える一言:
 これまで以上に皆様の健康に役立てるようがんばります。お気軽にご相談下さい。

王子クリニック



織田奈穂美

出身大学：大分大学
卒業年次：平成6年
専門分野：一般内科、消化器内科
専門医認定医：日本医師会産業医 日本医師会認定
健康スポーツ医 日本体育協会公認
スポーツドクター
モットー：優しく、前向きに
趣味：ジム、テニス
10周年を迎える言葉：
これからもチーム関愛会でがんばります。



小川 慶太

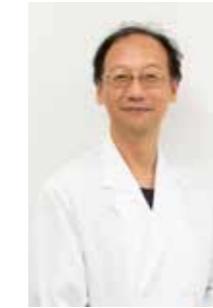
出身大学：大分大学
卒業年次：平成6年
専門分野：一般内科、心療内科
専門医認定医：日本体育協会認定スポーツドクター
モットー：身心一如
趣味：野球観戦
10周年を迎える言葉：
患者さんが心身共に健康で暮らせる
医療を目指します。

三重東クリニック



宇都宮健志

出身大学：自治医科大学
卒業年次：平成4年
専門分野：内科・消化器内科
モットー：成せばなる（中略）成さぬは人の
成さぬなりけり
趣味：スポーツ、音楽（するも、観るも、
聴くも好きです）
10周年を迎える言葉：
これからも地域へ貢献していきます。



別府 幹庸

出身大学：自治医科大学
卒業年次：平成4年
専門分野：小児科
専門医認定医：小児科専門医
モットー：患者さんに優しく
趣味：庭いじり、ウォーキング
10周年を迎える言葉：
これからも地域へ貢献していきます。



飯尾 文昭

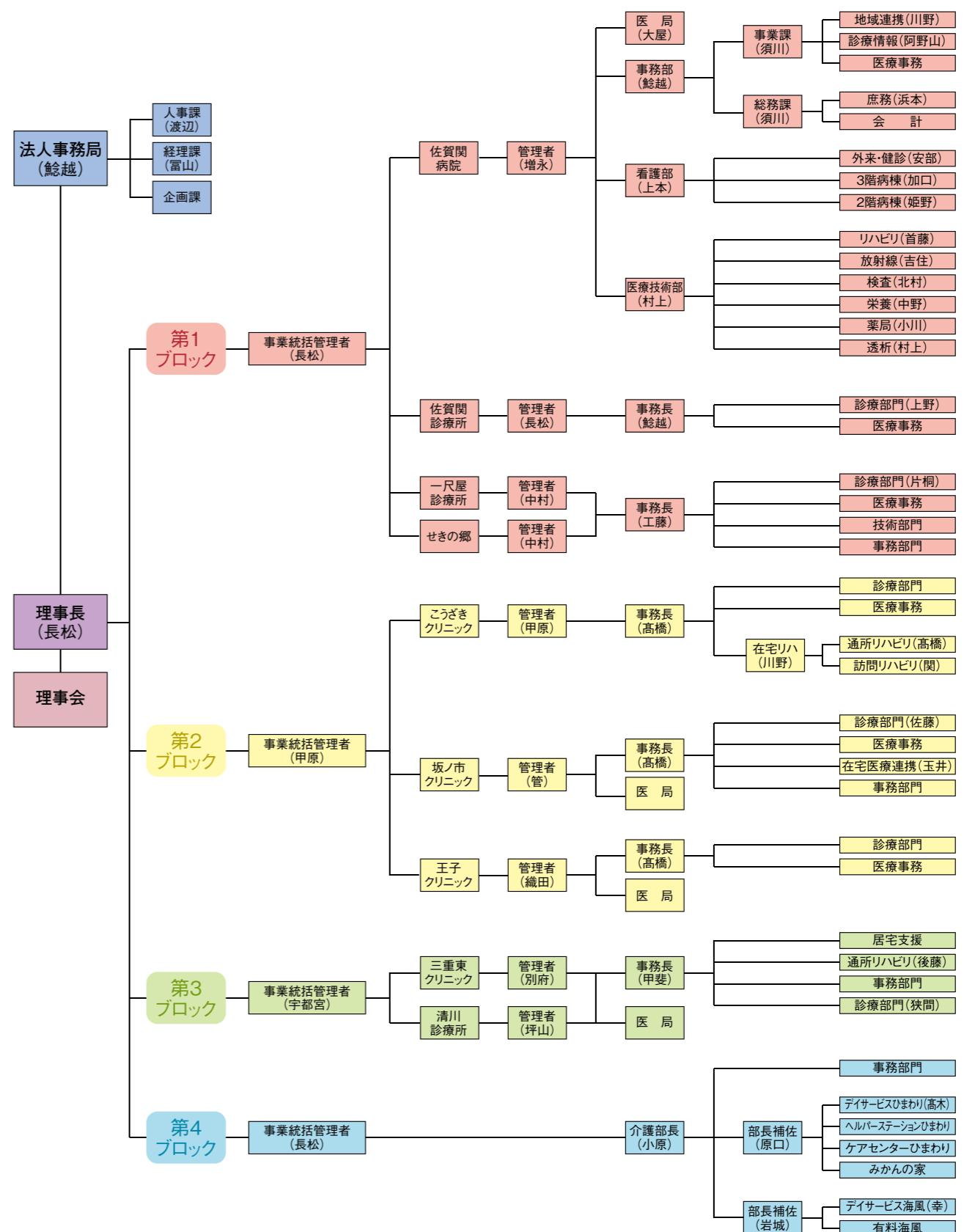
出身大学：自治医科大学
卒業年次：平成3年
専門分野：一般内科、糖尿病
専門医認定医：日本抗加齢医学専門医、日本プライマリ・ケア学会認定医、日本
内科学会認定医、日本医師会認定健康スポーツ医
モットー：丁寧にわかりやすく
趣味：大分ヒートデビルズ・観戦、ランニング、バイオリンやピアノ鑑賞
10周年を迎える言葉：
更に次の10年を見据えて、一步ずつ前進を！



坪山 明寛

出身大学：鹿児島大学
卒業年次：昭和48年
専門分野：内科・血液内科
専門医認定医：血液内科専門医、内科認定医、認定産業医
モットー：一日一笑、医道人道
趣味：写真撮影、俳句、童話創作、植物いじり、囲碁
10周年を迎える言葉：
10周年の金字塔を誇りとし信頼の医療の発展継続に努めたい。

社会医療法人関愛会 組織図(平成26年8月現在)



理事会							
理事長	長松 宜哉	理事	織田奈穂美	理事	中村 朋子	顧問	三井 嘉雄
筆頭理事	増永 義則	理事	宇都宮健志	理事	大屋 譲	顧問	河野 光雄
理事	甲原 芳範	理事	別府 幹庸	理事	杉本 剛		
理事	城 日出徳	理事	飯尾 文昭	監事	林 浩治		
理事	管 聰	理事	坪山 明寛	監事	空本 光弘		

法人事務局								
事務局長	鯨越 英夫	人事課長	渡辺 功	事 務	元永 晶子	事 務	平井 麻美	
経理課長	富山 浩	事 務	長松 喬哉	事 務	荒金志津江			

[第1ブロック] 事業統括責任者／長松 宜哉 事務長／鯨越 英夫

医局			看護部			外来			関愛会訪問看護ステーション			健診室		
院長	増永 義則	医師	曾根原 まどか	看護師		山崎 律子	准看護師		平本 今日子	看護師		兎玉あゆみ	保健師	
副院長	城 日出徳	医師	谷山 尚子	看護師		紀野 照代	准看護師		平本 まゆみ	看護師		下部 智子	看護師	
医局長	大屋 譲	医師	幸地 力哉	看護師		清水 美帆	准看護師		渡辺 美佳	介護福祉士		健診室		
	大屋 ゆり	医師	有徳 望美	看護師		平川 浩代	准看護師		工藤 周平	介護福祉士		兎玉あゆみ	保健師	
	杉本 剛	医師	尾野奈津美	看護師		田中 純子	准看護師		渡辺ひかる	看護助手		兎玉あゆみ	保健師	
	姫野 信治	医師	江川 敦子	看護師		進 あやか	准看護師		麻生 拓	介護職員		兎玉あゆみ	保健師	
	黒田 明子	医師	小田 陽子	看護師		合澤紀代美	介護福祉士		渡辺ひかる	看護助手		兎玉あゆみ	保健師	
看護部			薬師寺絵理佳	看護師		内田 昭彦	介護福祉士		兎玉あゆみ	保健師		兎玉あゆみ	保健師	
看護部長	上本 文子	看護師	上本 裕子	看護師		岩本 久栄	介護福祉士		兎玉あゆみ	保健師		兎玉あゆみ	保健師	
外来			後藤 聰美	看護師		幸 美由紀	介護福祉士		兎玉あゆみ	保健師		兎玉あゆみ	保健師	
師長	安部トモ子	看護師	高木由布子	看護師		和田 浩子	介護福祉士		兎玉あゆみ	保健師		兎玉あゆみ	保健師	
主任	前田ヒトミ	准看護師	姫野 良子	准看護師		土師 賢之	介護福祉士		兎玉あゆみ	保健師		兎玉あゆみ	保健師	
主任	紀野さつき	准看護師	森 里美	准看護師		佐野 達哉	介護職員		兎玉あゆみ	保健師		兎玉あゆみ	保健師	
主任	池田 弘美	准看護師	後藤 志保	准看護師		右田 翼	介護職員		兎玉あゆみ	保健師		兎玉あゆみ	保健師	
	伊藤 康子	看護師	小澤 智美	准看護師		野口 美保	介護職員		兎玉あゆみ	保健師		兎玉あゆみ	保健師	
	山本 留美	看護師	久光 沙知	准看護師		関愛会訪問看護ステーション			兎玉あゆみ	保健師		兎玉あゆみ	保健師	
	内田 有子	看護師	佐々木眞子	准看護師		平本 今日子	看護師		兎玉あゆみ	保健師		兎玉あゆみ	保健師	
	嶋村 由香	准看護師	木村こず恵	准看護師		平本 まゆみ	看護師		兎玉あゆみ	保健師		兎玉あゆみ	保健師	
	橋本智恵美	医師事務補助	永田 香	准看護師		下部 智子	看護師		兎玉あゆみ	保健師		兎玉あゆみ	保健師	

2階病棟			3階病棟			医療技術部		
師長	姫野 圭子	看護師	師長	加口 美香	看護師 <th>医療技術部長</th> <td>村上 圭太</td> <td>臨床工学技士</td>	医療技術部長	村上 圭太	臨床工学技士
主任	幸野紀美重	看護師	主任	林 ゆかり	看護師			
主任	山下加代子	看護師	主任	赤峰 寿子	看護師			
副主任	姫野 未央	看護師		飯塚 升美	看護師			
副主任	房前 匡	看護師		江藤 初代	看護師	薬局長	小川 陽平	薬剤師
	島崎 由美	看護師		上野 貴子	看護師		江川 祐子	薬剤師
	高橋 悅子	看護師		石橋 朋子	看護師		藤沢 香里	調剤助手
	岩本しのぶ	看護師		大地こずえ	看護師		小手川麻里	調剤助手
	秋吉 裕美	看護師		藤沢 定子	准看護師			
	峯 小百合	看護師						

検査室			
室長	北村	洋子	検査技師
	田中	恵子	検査技師
	小野	亮介	検査技師

放射線室			
室長	吉住 光博	放射線技師	
	植木 雅博	放射線技師	
	伊藤 剛平	放射線技師	
	久多良木繁徳	放射線技師	

リハビリテーション室			
室長	首藤 康弘	理学療法士	
主任	川江 章利	理学療法士	
主任	安部 純子	作業療法士	
	武田 義弘	理学療法士	
	千葉 将司	理学療法士	
	佐藤 寛之	理学療法士	
	湊 航平	理学療法士	
	板井 勇樹	理学療法士	
	今川 舞	理学療法士	
	飛高 篤実	作業療法士	
	亀島 有起	作業療法士	
	佳元 可奈	作業療法士	
	河野 紗希	作業療法士	
	姫野 美香	作業療法士	
	友岡 薫	言語聴覚士	

院長	長松 宜哉	医師
	仲野 貴明	歯科医師
	上野 幸子	看護師
	嶋崎 洋子	准看護師

院長 中村 朋子 医師

介護老人保健施設せきの郷									
事務長	工藤 真一	社会福祉士	内田 育男	介護福祉士	藤谷久美子	介護福祉士			
師 長	片桐 光代	看護師	佐藤 卓弥	介護福祉士	後藤 久美	介護福祉士			
工藤富貴子		看護師	小原 直也	介護福祉士	姫野優利子	介護職員			
池松千賀子		看護師	神崎 翔	介護福祉士	久留嶋理恵	介護職員			
木崎智恵美		看護師	植田マサ子	介護福祉士	高橋 直之	理学療法士			
青山 澄子		准看護師	北山 翔一	介護福祉士	門柳 里奈	管理栄養士			
幸 哲美		准看護師	姫野 裕之	介護福祉士	加藤 直子	介護支援専門員			
村本 明美		准看護師	甲斐 直樹	介護福祉士	渡邊 由美	事務			
岩川 健志		介護福祉士	高野 修司	介護福祉士	安達 和美	事務兼介護助手			

総務課／事業課		
課長	須川 雅夫	事務
主任	浜本 祐三	介護福祉士
主任	阿野山丈尚	事務
	若林 博司	事務
	山内 基成	事務
	平本喜一朗	事務
	田平真一路	事務
	西村 喜江	医療事務
	佐藤 浩子	医療事務
	衛藤 加奈	医療事務
	竜田 洋文	医療事務
	鶴田真由美	医療事務
	小橋 敦史	診療情報管理士
	一宮美奈子	配食
	佐藤 規夫	事務

地域連携室		
室長	川野 壮彦	社会福祉士
	久保太一郎	社会福祉士
	朝倉 梨絵	社会福祉士
	加藤 圭一	社会福祉士

警備		
	中尾 泰博	警備
	甲斐美喜夫	警備
	萱島五十一	警備

	松本 一世	歯科事務
	黒木佳寿美	医師事務補助

足立 典子 準看護師

[第2ブロック] 事業統括責任者／甲原 芳範 事務長／高橋 勝

(2014.8.1 の配置状況)

こうざきクリニック		
院 長	甲原 芳範	医 師
事務長	高橋 勝	社会福祉士
松永 五月	看護師	
猪原 直美	看護師	
仲家 祐子	医療事務	
在宅リハビリテーション室		
室 長	川野剛士	理学療法士

こうざきデイケア・リハビリテーションセンターもみの木		
主 任	高橋 春美	介護福祉士
	赤野 将貴	理学療法士
	一万田 幸代	理学療法士
	高見 裕也	作業療法士
	後藤 志保	作業療法士
庄司 悅子	准看護師	

王子クリニック		
院 長	織田奈穂美	医 師
副院長	小川 慶太	医 師
事務長	高橋 勝	社会福祉士
	鰐永由加利	看護師

坂ノ市クリニック		
院 長	管 聰	医 師
副院長	橋永さおり	医 師
事務長	高橋 勝	社会福祉士
師 長	佐藤 直美	看護師
主 任	原 明美	看護師
主 任	玉井 進	社会福祉士
	大塚 奈々	社会福祉士
	山本 順子	医療事務
	藤原 美樹	医療事務
	吉田 邦夫	事 務
	下郡 幸春	運転手
	乙部 公香	看護師
	池田由嘉里	看護師

[第3ブロック] 事業統括責任者／宇都宮健志 事務長／甲斐 敏幸

(2014.8.1 の配置状況)

三重東クリニック		
院 長	別府 幹庸	医 師
副院長	宇都宮健志	医 師
副院長	飯尾 文昭	医 師
事務長	甲斐 敏幸	事 務
師 長	狭間 冷子	看護師
主 任	河野 智子	看護師
	松本 真弓	看護師
	山内登代美	看護師

清川診療所		
院 長	坪山 明寛	医師
事務長	甲斐 敏幸	事 務
	狩野 育子	看護師
	高田喜久枝	看護師
	高森 昌子	医療事務

きよかわリハビリテーションセンターもみの木		
主 任	後藤 智穂	理学療法士
副主任	小野 泰典	介護福祉士
	榎山由布子	作業療法士
	太田 幸子	看護師
	穴井ヒデ子	准看護師
	衛藤 和代	介護福祉士
	後藤 理恵	介護職員

[第4ブロック] 事業統括責任者／長松 宜哉 介護部長／小原 淳

管理		
介護部長	小原 淳	介護福祉士
部長補佐	原口 和之	社会福祉士／主任ケアマネ
部長補佐	岩城千代子	介護福祉士
	小野 裕子	事務

デイサービスひまわり		
主任	高木 俊和	介護福祉士
副主任	平林 美穂	介護福祉士
	菅本 由紀	介護福祉士
	村本 浩一	介護福祉士
	牧 大輔	介護福祉士
	松井万里子	介護福祉士
	古賀 稔明	介護福祉士
	堀 彩乃	介護福祉士
	新志 竜生	介護福祉士
	元重 京	介護職員
	須藤 幸枝	介護職員
	亀井 仁	介護職員
	藤沢 大樹	介護職員
	坂井 恭子	看護師
	姫野 桂子	准看護師
	石崎 志保	理学療法士

みかんの家

合澤 恵子	介護福祉士	小加部美知	介護福祉士
-------	-------	-------	-------

海風

デイサービス海風		
部長補佐	岩城千代子	介護福祉士
主任	幸 将志	介護福祉士
副主任	内田 亜美	介護福祉士
	赤嶺 圭司	介護福祉士
	佐々木智則	介護福祉士
	村尾 裕之	介護福祉士
	河野由加里	介護福祉士
	武石 優子	介護福祉士
	本田 俊一	介護福祉士
	池田 啓子	看護師
	辻生由美子	准看護師
	矢野 理沙	作業療法士

(2014.8.1 の配置状況)

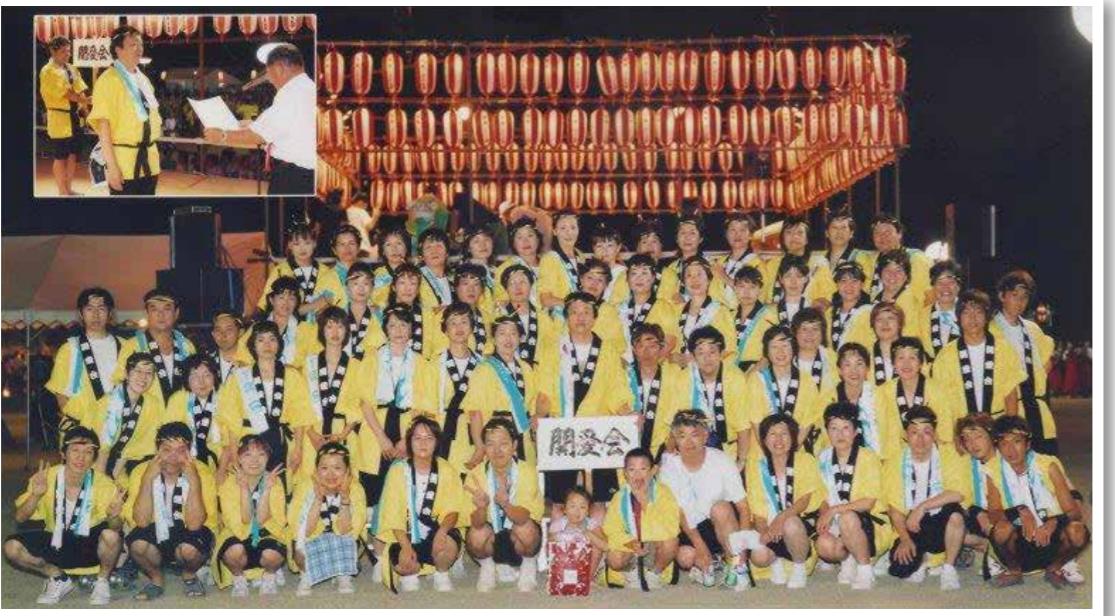
ヘルパーステーションひまわり		
堀部 恵子	介護福祉士	
紀野 由美子	介護福祉士	
大熊 千佳	介護福祉士	
深田 洋子	介護職員	
渡辺寿賀子	介護福祉士	
吉良ミサエ	介護福祉士	
相澤 栄子	介護福祉士	

ケアセンターひまわり		
部長補佐	原口 和之	社会福祉士／主任ケアマネ
	大垣 千穂	看護師／ケアマネ
	浦辺 由利	介護福祉士／ケアマネ
	友江 裕幸	社会福祉士／ケアマネ
	柴田 あゆみ	社会福祉士／ケアマネ
	伊藤 真理	介護福祉士／ケアマネ

■ 職種別職員数推移(H16.7~H26.8)

	開設時	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度
医 師	9	7	8	8	11	11	11	15	16	18	18	18
歯 科 医 師												1
薬 劑 師	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	3	2
保 健 師		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
看 護 師	34	34	33	37	39	38	41	52	57	62	68	71
准 看 護 師	25	28	22	21	23	22	24	24	20	22	37	35
介 護 職 員	34	41	39	38	39	43	45	45	51	67	77	79
診 療 放 射 線 技 師	2	2	2	2	2	3	3	4	4	4	4	4
臨 床 検 查 技 師	2	2	2	2	3	2	2	3	3	4	5	5
臨 床 工 学 技 士	1	1	2	2	2	3	4	4	4	5	5	5
管 理 栄 養 士	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	4	4
理 学 療 法 士	2	2	2	3	6	9	11	12	14	17	19	17
作 業 療 法 士				1	2	4	5	6	7	10	11	12
言 語 聽 覚 士						2	1	1	2	3	3	3
社 会 福 祉 士	2	2	3	4	3	3	4	4	5	5	6	6
介護支援専門員			4	4	3	3	3	4	5	5	9	9
診 療 情 報 管 理 士			1	2	1	1	1	1	1	1	1	1
歯 科 衛 生 士										1	2	2
医 療 事 務	7	7	8	9	7	11	10	11	14	15	13	15
一 般 事 務	9	11	12	12	14	11	13	14	17	20	24	27
そ の 他	12	12						3	5	4	6	7
合 計	143	154	143	150	160	170	185	210	229	270	317	324

あの日の想い出



平成17年度 第25回関の鯛つりおどり大会にて

実績推移



平成16年7月～平成26年3月までの診療実績											
医療事業											
■ 佐賀関病院（外来）											
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
患者延人数	36,431	42,900	29,947	28,317	27,538	34,303	34,442	34,124	31,740	30,691	
■ 佐賀関病院（入院）											
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
患者延人数	27,702	35,691	31,417	32,368	31,956	32,038	32,252	32,217	33,926	31,405	
■ 佐賀関診療所（平成17年12月開設）											
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
患者延人数	—	—	14,424	14,427	15,051	16,215	16,205	15,265	14,504	13,777	
■ 一尺屋診療所											
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
患者延人数	—	—	9,166	9,224	6,761	5,325	5,008	4,510	4,009	3,830	
■ こうざきクリニック（平成18年10月開設、平成19年7月新築移転）											
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
患者延人数	—	—	3,084	6,392	6,463	7,438	7,635	8,635	8,452	8,337	
■ せきあいクリニック（平成21年5月開設・平成24年11月王子クリニックと統合）											
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
患者延人数	—	—	—	—	—	4,169	5,727	6,879	3,609		
■ 訪問診療クリニックのぞみ（平成24年4月開設・平成25年12月坂ノ市クリニックとして新築移転）											
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
患者延人数	—	—	—	—	—	—	—	—	3,359	3,650	
■ 王子クリニック（平成24年6月開設）											
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
患者延人数	—	—	—	—	—	—	—	—	3,799	7,840	
■ 坂ノ市クリニック（外来）（平成25年12月開設）											
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
患者延人数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,406	
■ 坂ノ市クリニック（入院）（平成25年12月開設）											
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
患者延人数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,016	
■ 三重東クリニック（平成22年9月開設）											
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
患者延人数	—	—	—	—	—	—	—	—	18,404	33,819	34,387
	—	—	—	—	—	—	—	—	36,163		
■ 清川診療所（平成23年4月開設）											
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
患者延人数	—	—	—	—	—	—	—	—	2,421	2,852	3,105
医療事業計	64,133	78,591	88,038	90,728	87,769	99,488	119,673	137,870	140,637	142,220	

介護事業

■ デイサービスひまわり

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
利用延人数	3,052	13,881	13,592	11,661	10,515	11,215	13,430	13,853	13,799	13,282

■ ヘルパーステーションひまわり

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
利用延人数	3,226	12,496	12,710	12,048	11,485	9,480	9,936	8,055	6,806	7,962

■ ケアセンターひまわり

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
利用延人数	559	2,479	1,836	1,748	1,390	1,223	1,339	1,489	1,915	2,355

■ デイサービス海風（平成24年7月開設）

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
利用延人数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4,395

■ こうざきディケア・リハビリテーションセンターもみの木（平成19年7月開設・平成24年12月増築）

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
利用延人数	—	—	—	3,147	6,252	8,085	9,749	10,273	11,653	14,123

■ 佐賀関病院訪問リハビリテーション事業所（平成20年4月開設・平成23年度こうざきクリニック内に移転）

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度

<tbl_r cells="11" ix="2

僻地診療所等への代診医派遣実績（平成18年度～平成25年度）		
市町村	代診先機関	代診医派遣回数
平成18年度（2006年度）		
姫島村	姫島村国民健康保険診療所	23
佐伯市	佐伯市国民健康保険因尾診療所	3
豊後大野市	豊後大野市国民健康保険清川診療所	1
日田市	日田市立上津江診療所	3
日田市	日田市立東渓診療所	2
合 計		32
平成19年度（2007年度）		
姫島村	姫島村国民健康保険診療所	3
佐伯市	佐伯市国民健康保険西野浦診療所	1
竹田市	竹田医師会病院	56
日田市	日田市立東渓診療所	3
合 計		63
平成20年度（2008年度）		
姫島村	姫島村国民健康保険診療所	61
佐伯市	佐伯市国民健康保険因尾診療所	1
佐伯市	佐伯市国民健康保険米水津診療所	18
合 計		80
平成21年度（2009年度）		
姫島村	姫島村国民健康保険診療所	46
佐伯市	佐伯市国民健康保険丹賀診療所	4
佐伯市	佐伯市国民健康保険因尾診療所	5
佐伯市	佐伯市国民健康保険大島診療所	1
合 計		56
平成22年度（2010年度）		
姫島村	姫島村国民健康保険診療所	41
佐伯市	佐伯市国民健康保険丹賀診療所	4
佐伯市	佐伯市国民健康保険因尾診療所	3
佐伯市	佐伯市国民健康保険西野浦診療所	1
佐伯市	佐伯市国民健康保険米水津診療所	4
中津市	中津市国民健康保険榎木診療所	4
合 計		57

市町村	代診先機関	代診医派遣回数
平成23年度（2011年度）		
姫島村	姫島村国民健康保険診療所	14
佐伯市	佐伯市国民健康保険丹賀診療所	4
佐伯市	佐伯市国民健康保険大島診療所	1
中津市	中津市国民健康保険榎木診療所	5
合 計		24
平成24年度（2012年度）		
姫島村	姫島村国民健康保険診療所	36
佐伯市	佐伯市国民健康保険丹賀診療所	8
佐伯市	佐伯市国民健康保険大島診療所	1
中津市	中津市国民健康保険榎木診療所	12
中津市	中津市国民健康保険津民診療所	1
日田市	日田市立東渓診療所	1
合 計		59
平成25年度（2013年度）		
姫島村	姫島村国民健康保険診療所	24
佐伯市	佐伯市国民健康保険丹賀診療所	50
佐伯市	佐伯市国民健康保険因尾診療所	50
中津市	中津市国民健康保険榎木診療所	12
合 計		136



学会等の研究発表					
発表月	学会名	場 所	発表テーマ	発 表 者	職 種
平成16年度（2004年度）					
7月	大分臨床栄養研究会	大分県	グルセルナを使用して血糖コントロールが良好となつた経口栄養患者	安達 稔	薬剤師
8月	大分人工透析研究会	大分県	下腿浮腫を主訴に発見されたBasedow病の血液透析患者	増永 義則	医師
9月	大分県医学会	大分県	老人福祉施設入所者の長期経管栄養中の銅欠乏症、亜鉛欠乏症の検討	大屋 譲	医師
2月	大分県地域医療研究会	大分県	地域中核病院におけるNST (nutritional support team) 活動の取り組み	飯塚 升美	看護師
3月	大分県医療マネジメント学会	大分県	市町村合併後の地域における医療福祉相談及び地域連携機能の必要性について	高橋 勝	社会福祉士
平成17年度（2005年度）					
6月	大分 NST 研究会	大分県	当院でのNST活動の取り組み・管理栄養士の立場から	中野 広美	管理栄養士
6月	日本透析医学会学術集会	神奈川県	末梢知覚閾値検査を用いた血液透析患者の末梢神経障害の検討	増永 義則	医師
7月	大分県呼吸療法研究会	大分県	呼吸器疾患患者に対する当院での栄養管理の試み	甲原 芳範	医師
7月	大分県臨床栄養研究会	大分県	当院における経腸栄養の工夫	片山 由美	看護師
9月	大分人工透析研究会	大分県	透析システムの消毒剤は過酢酸系消毒剤1剤が可能である	首藤 崇伸	臨床工学技士
2月	大分県理学療法士学会	大分県	大分県における理学療法士の社会的認知	首藤 康弘	理学療法士
平成18年度（2006年度）					
7月	大分県呼吸療法研究会	大分県	慢性呼吸器疾患に対する栄養療法の現状と問題点	甲原 芳範	医師
11月	大分県病院学会	大分県	簡易懸濁法の試み	幸 哲美	看護師
11月	日本内科学会九州地方会	大分県	椎間板炎の治療中に発症したcollagenous colitisの一例	甲原 芳範	医師
2月	日本静脈経腸栄養学会	愛媛県	食欲のない認知症患者に対する飲茶子セット（手軽な菓子の詰め合わせ）の試み	姫野 圭子	看護師
2月	日本静脈経腸栄養学会	愛媛県	脾頭十二指腸切除後に生じた重篤な栄養障害とその治療について	甲原 芳範	医師
2月	日本静脈経腸栄養学会	愛媛県	アイス棒ジュースを用いた嚥下訓練	飯塚 升美	看護師
2月	日本静脈経腸栄養学会	愛媛県	栄養管理加算、栄養マネジメント加算の新設前後の当院の栄養管理の変化	中野 広美	管理栄養士
2月	日本静脈経腸栄養学会	愛媛県	パネルを用いた嚥下訓練	中村 朋子	医師
3月	大分臨床栄養研究会	大分県	嚥下訓練の試み	川上 真澄	理学療法士
平成19年度（2007年度）					
11月	大分県病院学会	大分県	家屋調査実績から見たMSWの視点	高橋 勝	社会福祉士
11月	九州医療社会事業研修会	佐賀県	家屋調査実績から見たMSWの視点	高橋 勝	社会福祉士
4月	大分嚥下音声言語研究会	大分県	アイス棒ジュースを用いた嚥下訓練	飯塚 升美	看護師
11月	大分県病院学会	大分県	地域連携型NSTに向けての取り組み	中野 広美	管理栄養士
11月	大分県病院学会	大分県	食事姿勢のアプローチ～小柄で円背著明な坐位姿勢不良な方に対して～	関 隆行	作業療法士
6月	大分県真菌研究会	大分県	末梢カテーテルによるカンジダ血症2例	管 聰	医師
2月	日本静脈経腸栄養学会	京都府	末梢カテーテルによるカンジダ血症2例	管 聰	医師
2月	日本静脈経腸栄養学会	京都府	退院時アルブミン値と3ヶ月以内早期再入院の関係についての検討	北村 洋子	臨床検査技師
2月	日本静脈経腸栄養学会	京都府	地域連携型NSTに向けての取り組み	中野 広美	管理栄養士
2月	日本静脈経腸栄養学会	京都府	アイス棒ジュース第2報	飯塚 升美	看護師
平成20年度（2008年度）					
6月	訪問リハ・通所リハ研究会	大分県	佐賀開病院における訪問リハビリテーション事業の展開	首藤 康弘	理学療法士
11月	九州医療社会事業研修会	鹿児島県	MSWが行う転院援助を考える	高橋 勝	社会福祉士

発表月	学会名	場 所	発表テーマ	発 表 者	職 種
11月	九州医療社会事業研修会	鹿児島県	「個」と「全体」で捉えるMSWの有用性について	玉井 進	社会福祉士
9月	大分県病院協会栄養部会	大分県	NSTにおける私の役割	管 聰	医師
9月	大分県病院協会栄養部会	大分県	NSTにおける看護師の役割	飯塚 升美	看護師
9月	大分県病院協会栄養部会	大分県	当院での管理栄養士の役割	中野 広美	管理栄養士
10月	大分県リハ・ケア学会	大分県	佐賀開病院における介護予防活動の取り組み	首藤 康弘	理学療法士
11月	大分県病院学会	大分県	「退院時栄養情報提供書」や「地域栄養勉強会」による地域連携の試みと現状	中野 広美	管理栄養士
11月	大分県病院学会	大分県	当院の血糖自己測定装置の精度と各機種の比較検討	北村 洋子	臨床検査技師
12月	大分NST研究会	大分県	簡易懸濁法	伊藤 未来	薬剤師
1月	日本静脈経腸栄養学会	鹿児島県	従来のアイスマッサージ法とアイス棒ジュースを用いた嚥下訓練法との比較検討	飯塚 升美	看護師
1月	日本静脈経腸栄養学会	鹿児島県	「退院時栄養情報提供書」や「地域栄養勉強会」による地域連携の試みと現状	中野 広美	管理栄養士
1月	日本静脈経腸栄養学会	鹿児島県	当院NSTへの理学療法士としての関わり	川上 真澄	理学療法士
1月	日本静脈経腸栄養学会	鹿児島県	胃食道逆流と難治性下痢のコントロールに苦慮した反応性A Aミロイドーシスの1例	中村 朋子	医師
1月	日本静脈経腸栄養学会	鹿児島県	CDADの発症、経過にPPIs、H2RAsは関与するか	甲原 芳範	医師
1月	日本静脈経腸栄養学会	鹿児島県	経皮的胃瘻一空腸瘻増設術挿入手技の工夫	管 聰	医師
1月	大分県作業療法学会	大分県	食事姿勢のアプローチ～小柄で円背著明な坐位姿勢不良な方に対して～	関 隆行	作業療法士
3月	大分臨床栄養研究会	大分県	退院後早期再入院に影響を与える因子の検討 退院時低アルブミン血症の意義	北村 洋子	臨床検査技師
3月	医療マネジメント学会大分地方会	大分県	当院の医療安全対策の現状	増永 義則	医師
平成21年度（2009年度）					
8月	大分県理学療法士協会大分地区症例検討会	大分県	デイケアもみの木におけるパワーリハビリテーション導入の効果	川野 剛士	理学療法士
11月	大分県病院学会	大分県	リフレイミングアプローチを用いた援助	久保太一郎	介護支援専門員
11月	九州医療社会事業研修会	長崎県	リフレイミングアプローチを用いた援助	工藤 真一	社会福祉士
10月	大分県病院学会	大分県	クロメ朝食摂取の血糖及びインスリン反応への効果	中野 広美	管理栄養士
10月	大分滅菌及び感染対策研究会	大分県	NSTと感染管理	管 聰	医師
12月	大分NST研究会	大分県	当院における地域連携の現状	中野 広美	管理栄養士
1月	大分県作業療法学会	大分県	在宅復帰患者の退院後追跡調査	関 隆行	作業療法士
2月	日本静脈経腸栄養学会	千葉県	PEG症例による嚥下性肺炎の危険因子の検討	管 聰	医師
2月	日本静脈経腸栄養学会	千葉県	慣れ親しんだ食環境に戻すことで食事摂取が可能となった認知症患者の一例	飯塚 升美	看護師
2月	日本静脈経腸栄養学会	千葉県	当院の透析患者における血清亜鉛、血清銅の透析前後の検査値の検討	北村 洋子	臨床検査技師
2月	日本静脈経腸栄養学会	千葉県	デイケア利用者の身体計測とパワーリハビリテーション後の変化	甲原 芳範	医師
2月	日本静脈経腸栄養学会	千葉県	クロメ朝食摂取の血糖及びインスリン反応への効果	中野 広美	管理栄養士
2月	日本静脈経腸栄養学会	千葉県	ボラブレジング使用中に発症した銅欠乏症の一例～本邦報告例の検討を含めて～	甲原 芳範	医師
平成22年度（2010年度）					
3月	大分県医療ソーシャルワーカー協会公開セミナー	大分県	MSWが在宅医療に関わる意義	大塚 奈々	社会福祉士
6月	大分PEGカンファレンス	大分県	PEG症例における嚥下性肺炎の危険因子の検討	管 聰	医師
9月	大分人工透析研究会	大分県	当院における透析液清浄化への取り組み	永井 克徳	臨床工学技士
9月	九州医学検査学会	大分県	慢性血液透析患者における透析前後の血清亜鉛、血清銅値の検討	北村 洋子	臨床検査技師
10月	大分臨床研究会	大分県	慣れ親しんだ食環境に戻すことで食事摂取が可能となった認知症患者の一例	飯塚 升美	看護師

発表月	学会名	場所	発表テーマ	発表者	職種
10月	大分地域リハビリテーション・ケア研究大会	大分県	こんなはずじゃなかった、住環境整備～追跡調査により気付かされたこと～	関 隆行	作業療法士
11月	別府大学食物栄養学部栄養学科	大分県	臨床栄養学 栄養評価の実際	中野 広美	管理栄養士
11月	大分県病院学会	大分県	デイサービス・デイケア利用者への栄養に加え、利用者家族への栄養指導の試み	門柳 里奈	管理栄養士
11月	大分臨床工学会	大分県	内視鏡技師と臨床工学技士が存在する内視鏡室の現状と課題	首藤 崇伸	臨床工学技士
11月	九州消化器内視鏡技術研究会	沖縄県	上部消化器内視鏡検査における咽頭麻酔の比較検討	畠田 直子	看護師
1月	大分県作業療法学会	大分県	こんなはずじゃなかった、住環境整備～追跡調査により気付かされたこと～	関 隆行	作業療法士
2月	日本静脈経腸栄養学会	愛知県	経腸栄養患者（経胃瘻的空腹瘻）の難治性下痢に對してココアが有効であった一例	甲原 芳範	医師
2月	日本静脈経腸栄養学会	愛知県	大分県内のNSTの取り組みと加算についての状況	中野 広美	管理栄養士
2月	日本静脈経腸栄養学会	愛知県	濃厚流動食PRONA使用による血清Na値の短期的変動に関する検討	飯塚 升美	看護師
2月	日本静脈経腸栄養学会	愛知県	骨粗鬆症患者（外来女性患者）における血清亜鉛値の検討	北村 洋子	臨床検査技師
2月	日本静脈経腸栄養学会	愛知県	PPIs(Proton pump inhibitor)はクロストリジウムディフィシリル関連下痢症(CDAD)の発症に関与する	甲原 芳範	医師
2月	日本静脈経腸栄養学会	愛知県	嚥下性障害患者の体重変化についての検討	河原明希子	言語聴覚士
2月	大分県理学療法士学会	大分県	佐賀閑地域におけるケーブルテレビを活用した介護予防活動	首藤 康弘	理学療法士
3月	大分市通所事業所勉強会	大分県	「人生活き生き道場」道場開きから1年が経過して	高橋 稔直	介護士

平成23年度（2011年度）

8月	大分市保健所勉強会	大分県	嚥下食と当院嚥下チームの活動について	中野 広美	管理栄養士
9月	大分県病院学会栄養部会研究会	大分県	大分県内のNSTへの取り組みと加算についての状況	中野 広美	管理栄養士
11月	大分県病院学会	大分県	訪問診療に関わるMSWの役割	工藤 真一	社会福祉士
11月	別府大学食物栄養科学部栄養学科	大分県	臨床栄養学 栄養評価の実際	中野 広美	管理栄養士
11月	大分臨床栄養研究会	大分県	大分県内のNSTへの取り組みと加算についての状況	中野 広美	管理栄養士
11月	大分県病院学会	大分県	従来のアイスマッサージ法とアイス棒ジュースを用いた嚥下訓練法の比較検討	高橋 悅子	看護師
11月	大分県病院学会	大分県	経腸栄養から経口摂取が可能となり急激にADLが向上した一例	岩川 健志	介護福祉士
11月	大分県病院学会	大分県	JSPEN認定教育施設としての当院の取り組みと実習生のその後の状況	飯塚 升美	看護師
11月	大分県病院学会	大分県	佐賀閑病院透析室におけるヒヤリハットの状況と対策	黒木 貴之	臨床工学技士
11月	大分県病院学会	大分県	人生活き生き道場開設～通所リハにおける活動範囲の拡大を目指して～	川野 剛士	理学療法士
11月	大分県病院学会	大分県	転倒予防を目的とした注意機能向上へのアプローチ～再転倒を繰り返す症例を通しての一考察	千葉 将司	理学療法士
11月	大分県訪問リハ通所リハ研究会	大分県	通所リハとしての地域連携	川野 剛士	理学療法士
2月	日本静脈経腸栄養学会	兵庫県	JSPEN認定教育施設としての当院の取り組みと研修生のその後の状況	中野 広美	管理栄養士
2月	日本静脈経腸栄養学会	兵庫県	東日本大震災を経験した施設から学んだ事 管理栄養士としての防災対策の見直し	中野 広美	管理栄養士

平成24年度（2012年度）

11月	大分県病院学会	大分県	社会医療法人関愛会のへき地医療支援	高橋 勝	社会福祉士
11月	大分県病院学会	大分県	東日本大震災を経験した施設から学んだこと	門柳 里奈	管理栄養士
11月	別府大学食物栄養学部開設10周年記念シンポジウム	大分県	栄養サポートチーム加算前後の介入効果の比較検討	門柳 里奈	管理栄養士
9月	大分人工透析研究会	大分県	粟粒結核治療中に多彩な副作用を示した透析患者の1例	増永 義則	医師
10月	別府大学食物栄養学部栄養学科	大分県	臨床栄養学 栄養評価の実際	中野 広美	管理栄養士

発表月	学会名	場所	発表テーマ	発表者	職種
1月	大分県地域医療研究会	大分県	約1週間巣入していたと考えられたが、空気整復にて整復可能であった腸重積の一例	別府 幹庸	医師
3月	大分県栄養士会	大分県	病院内や地域内での連携を保ち長期間栄養管理を行った脳梗塞後遺症（嚥下障害）の1例	中野 広美	管理栄養士

平成25年度（2013年度）

6月	日本透析医学会学術集会	福岡県	複数の抗結核薬に対して副作用が現れた血液透析患者の1例	増永 義則	医師
2月	日本静脈経腸栄養学会	神奈川県	病院NSTによる老人介護施設職員への施設訪問型栄養勉強会の試み	中野 広美	管理栄養士
2月	日本静脈経腸栄養学会	神奈川県	海藻のクロメ摂取が2型糖尿病患者の血糖値や血清インスリン濃度に及ぼす影響	中野 広美	管理栄養士
10月	別府大学食物栄養学部栄養学科	大分県	臨床栄養学 栄養評価の実際		
10月	大分市医療連携実務者協議会	大分県	佐賀閑病院の地域連携室について	久保太一郎	社会福祉士
11月	大分県病院学会	大分県	通所リハビリの事業拡大におけるシステムの改善	川野 剛士	理学療法士

平成26年度（2014年度）

1月	大分脂肪酸研究会	大分県	私がEPAを処方する理由	宇都宮健志	医師
6月	大分PEGカンファレンス	大分県	悪い胃ろうは何なのか？栄養学的に評価する	中野 広美	管理栄養士
6月	大分NST研究会	大分県	摂食機能療法の取り組みを改善するきっかけとなつた一症例	小田 陽子	看護師
7月	全国デイケア研究大会	埼玉県	視点と連携でリハビリテーションが変わり、そして生活が変わる！	川野 �剛士	理学療法士

論文・雑誌掲載

時期	書籍名	タイトル	論文種類	著者
2005年3月	大分県医学会雑誌23巻1号	老人福祉施設入所者の長期経管栄養中に止られた銅欠乏症、亜鉛、好中球減少や貧血の精度で診断された症例を含めて	会議録	大屋謙、甲原芳範、大屋ジュリエッタゆり、織田奈穂美、増永義則、長松宜哉
2005年5月	日本透析医学会雑誌38巻	除菌剤ミンケアの長期使用経験	会議録	村上圭太、青山澄子、渡辺加代、池田弘美、増永義則、甲原芳範、大屋謙、大屋ゆり、長松宜哉
2005年5月	日本透析医学会雑誌38巻	末梢知覚閾値検査を用いた血液透析患者の末梢神経障害の検討	会議録	増永義則、村上圭太、青山澄子
2006年11月	大分県理学療法学第2巻	大分県における理学療法士の社会的認知度	原著論文	首藤康弘
2007年1月	静脈経腸栄養22巻増刊	アイス棒ジュースを用いた嚥下訓練	会議録	飯塚升美、上本文子、上本裕子、相本良治、中野広美、甲原芳範
2007年1月	静脈経腸栄養22巻増刊	脾頭十二指腸切除術後に生じた重篤な栄養障害とその治療について	会議録	甲原芳範、管聰、中村朋子
2007年1月	静脈経腸栄養22巻増刊	栄養管理施設加算・栄養マネージメント加算の新設前後の当院の栄養管理の変化	会議録	中野広美、飯塚升美、北村洋子、甲原芳範
2007年1月	静脈経腸栄養22巻増刊	イラストパネルを用いることによって介助方法を共有し経口摂取を進めることができた嚥下障害患者の1例	会議録／症例報告	中村朋子、甲原芳範、中野広美、飯塚升美
2007年1月	静脈経腸栄養22巻増刊	食欲のない認知症患者に対する飲菓子セット(手軽な菓子類の詰め合わせ)の試み	会議録	相本良治、飯塚升美、上本文子、管聰
2007年11月	臨床薬理38巻	河野式静注速度測定ソフトの評価	会議録	河野泰三
2007年12月	静脈経腸栄養22巻4号	当院でのNST活動の取り組み 管理栄養士の立場から	会議録	中野広美、飯塚升美、片山由美、木崎智恵子、相本弥代美、新家政代、上本文子、姫野圭子、牧野多美子、芝日出美、大屋ジュリエッタゆり、大屋謙、甲原芳範、増永義則、北村洋子、神崎富子、河野泰三、関愛会佐賀閑病院NST委員会

時期	書籍名	タイトル	論文種類	著者
2008年1月	静脈経腸栄養23巻増刊	未梢静脈留置カテーテルが原因と考えられたカンジタ血症の2例	会議録／症例報告	管聰、飯塚升美、北村洋子、中野広美、中村朋子、甲原芳範
2008年1月	静脈経腸栄養23巻増刊	アイス棒ジュースを用いた嚥下訓練法の検討	会議録	飯塚升美、中野広美、北村洋子、中村朋子、甲原芳範、管聰
2008年1月	静脈経腸栄養23巻増刊	地域連携型NSTに向けての試み	会議録	中野広美、飯塚升美、高橋勝、北村洋子、中村朋子、管聰、甲原芳範
2008年1月	静脈経腸栄養23巻増刊	3ヶ月退院時アルブミン値と以内の早期再入院の関係について	会議録	北村洋子、飯塚升美、中野広美、中村朋子、管聰、甲原芳範
2008年2月	糖尿病51巻2号	自己免疫甲状腺疾患を合併したSPIDDMの高齢同胞発症例	会議録／症例報告	大屋謙、中村朋子、長松宜哉
2008年4月	JJNスペシャル81号	【救急ケア最前線 知っておくべき救急初期対応】ER 受け入れ体制と準備 受付事務、電話対応	解説／特集	中村朋子
2008年6月	心身医学48巻6号	システム論的短期絶食療法の試み 摂食障害・機能性消化管の症例を通して	会議録／症例報告	小川慶太、吉里恒昭、丹生聖治
2008年6月	心身医学48巻6号	fluvoxamineにてactivation syndromeを呈し、三環系抗うつ薬にて改善した症例	会議録／症例報告	小川慶太、吉里恒昭、丹生聖治
2008年7月	EMERGENCY CARE2008夏季増刊号	【救急看護師・救急救命士のためのトリアージ プレホスピタルからER、災害まで】場面別トリアージの特徴と実際 プレホスピタル・救急外来救急外来におけるトリアージ 全次救急医療施設	解説／特集	中村朋子
2008年10月	日本薬剤師会学術大会講演要旨集41回	医薬品添加物(エタノール)に関する添付文書記載内容の調査と分析(第1報)副作用回避システムの構築	会議録	河野泰三、伊藤未来、瓜生田隆子、増永義則、長松宜哉
2008年10月	日本薬剤師会学術大会講演要旨集41回	注射薬の貯法に関する添付文書記載内容の調査と分析(第2報)遮光保存システムの構築	会議録	伊藤未来、河野泰三、瓜生田隆子、増永義則、長松宜哉
2008年10月	日本薬剤師会学術大会講演要旨集41回	河野式静注速度予測ソフトの開発経緯とその評価	会議録	河野泰三、伊藤未来、瓜生田隆子、増永義則、長松宜哉
2008年11月	臨床薬理39巻	添加物における添付文書記載内容の調査と分析(第1報)エタノール含有製剤による事故・副作用回避システムの構築	会議録	河野泰三、伊藤未来、瓜生田隆子、増永義則、長松宜哉
2008年11月	臨床薬理39巻	貯法に関する添付文書記載内容の調査と分析(第2報)遮光保存システムの構築	会議録	河野泰三、伊藤未来、瓜生田隆子、増永義則、長松宜哉
2008年11月	臨床薬理39巻	静注速度に関する添付文書記載内容の調査と分析(第6報)河野式静注速度予測ソフトの実際例	会議録	河野泰三、伊藤未来、瓜生田隆子、増永義則、長松宜哉
2008年11月	日本心療内科学会誌12巻抄録号	ジョイニングとしてのシステム論的短期絶食療法の試み 機能性消化管障害に伴う食思不振例の治療を通して	会議録／症例報告	小川慶太、織田奈穂美、吉里恒昭、丹生聖治
2008年12月	静脈経腸栄養23巻4号	「大分でのNSTの動向と展望」アウトカムの評価と今後の進む方向ケアミックス型病院におけるアウトカム評価	会議録	管聰、飯塚升美、北村洋子、川上真澄、中野広美、中村朋子、甲原芳範
2009年1月	静脈経腸栄養24巻1号	経皮的胃瘻・空腸瘻造設術(PEG-J)挿入手技の工夫	会議録	管聰、甲原芳範、中村朋子、大屋ゆり、中野広美、飯塚升美、北村洋子、川上真澄
2009年1月	静脈経腸栄養24巻1号	従来のアイスマッサージ法とアイス棒ジュースを用いた嚥下訓練法の比較検討	会議録	飯塚升美、川上真澄、管聰、甲原芳範、中野広美、北村洋子、中村朋子、大屋ジュリエッタゆり
2009年1月	静脈経腸栄養24巻1号	NSTへの理学療法士(PT)としてのかかわり	会議録	川上真澄、管聰、甲原芳範、中野広美、北村洋子、飯塚升美、中村朋子
2009年1月	静脈経腸栄養24巻1号	「退院時栄養情報提供書」や「地域栄養勉強会」による地域連携の試みと現状	会議録	中野広美、甲原芳範、管聰、中村朋子、大屋ゆり、北村洋子、飯塚升美、川上真澄
2009年1月	静脈経腸栄養24巻1号	胃食道逆流と難治性下痢のコントロールに苦慮した反応性AAアミロイド・シスの一例	会議録／症例報告	中村朋子、管聰、甲原芳範、大屋ゆり、中野広美、飯塚升美、北村洋子、川上真澄

時期	書籍名	タイトル	論文種類	著者
2009年1月	静脈経腸栄養24巻1号	偽膜性腸炎、クロストリジウムディブイシル関連下痢症の発症、経過に酸分泌抑制剤は関与するか	会議録	甲原芳範、中村朋子、管聰、大屋ジュリエッタゆり、中野広美、飯塚升美、北村洋子、川上真澄
2009年4月	レジデントノート11巻1号	【救急外来で軽症にみえる重症患者を見抜く】市販薬を服用して気分が悪くなった	解説／特集	中村朋子
2009年9月	静脈経腸栄養24巻5号	退院後早期再入院に影響を与える因子の検討 退院時の血清アルブミン値の意義	原著論文／比較研究	北村洋子、甲原芳範、中野広美、飯塚升美、中村朋子、大屋ジュリエッタゆり、管聰
2009年11月	静脈経腸栄養24巻6号	簡易懸濁法について 県内主要施設の使用状況と当院の使用法	会議録	伊藤未来、管聰
2009年11月	静脈経腸栄養24巻6号	胃瘻カテーテルによる十二指腸閉塞が誘因となった腸管囊腫様気腫症の1例	原著論文／症例報告	甲原芳範
2010年1月	静脈経腸栄養25巻1号	慣れ親しんだ食環境に戻すことで食事摂取が可能となった認知症患者の1例	会議録／症例報告	飯塚升美、中野広美、北村洋子、中村朋子、管聰、甲原芳範
2010年1月	静脈経腸栄養25巻1号	ポラプレジンK使用中に発症した銅欠乏症の1例 本邦報告例の検討を含めて	会議録／症例報告	甲原芳範、管聰
2010年1月	静脈経腸栄養25巻1号	クロメ朝食摂取の血糖およびインスリン反応への効果	会議録	中野広美、飯塚升美、北村洋子、中村朋子、管聰、甲原芳範
2010年1月	静脈経腸栄養25巻1号	デイケア利用者の身体計測値とパワーリハビリテーション後の変化	会議録	甲原芳範
2010年1月	静脈経腸栄養25巻1号	当院の透析患者における血清亜鉛、血清銅の透析前後の検査値の検討	会議録	北村洋子、管聰、甲原芳範
2010年1月	静脈経腸栄養25巻1号	PEG症例における誤嚥性肺炎の危険因子の検討	会議録	管聰、甲原芳範、中村朋子、中野広美、北村洋子、飯塚升美
2010年7月	静脈経腸栄養25巻4号	慣れ親しんだ食環境に戻すことで食事摂取が可能となった認知症患者の1例	会議録／症例報告	飯塚升美
2010年7月	静脈経腸栄養25巻4号	退院後早期再入院に影響を与える因子の検討 退院時低アルブミン血症の意義	会議録	北村洋子、甲原芳範、中野広美、飯塚升美、中村朋子、管聰
2010年7月	日本胸部臨床69巻7号	経皮的ドレナージを要した緊張性縦隔皮膿の2症例	原著論文／症例報告	甲原芳範
2010年11月	静脈経腸栄養25巻6号	当院におけるPEGの検討	会議録	管聰、甲原芳範
2010年11月	静脈経腸栄養25巻6号	当院における地域連携の現状	会議録	中野広美
2011年1月	静脈経腸栄養26巻1号	嚥下障害患者の体重減少についての検討	会議録	河原明希子、管聰、中村朋子、甲原芳範
2011年1月	静脈経腸栄養26巻1号	PPIs (Proton pump inhibitors) はクロストリジウムディフィシリ関連下痢症(CDAD)の発症に関与する	会議録	甲原芳範、北村洋子、管聰、中村朋子、中野広美、飯塚升美
2011年1月	静脈経腸栄養26巻1号	骨粗鬆症患者(外米女性患者)における血清亜鉛値の検討	会議録	北村洋子、管聰、甲原芳範
2011年1月	静脈経腸栄養26巻1号	濃厚流動食PRONA使用による血清Na値の短期的変動に関する検討	会議録	飯塚升美、管聰、甲原芳範
2011年1月	静脈経腸栄養26巻1号	大分県内のNSTへの取り組みと加算についての状況	会議録	中野広美、管聰、甲原芳範
2011年1月	静脈経腸栄養26巻1号	経腸栄養患者(経胃瘻的空腸瘻)の難治性下痢に対してココアが有効であった一例	会議録／症例報告	甲原芳範、管聰、中村朋子、中野広美、北村洋子、飯塚升美
2011年9月	Gastroenterological Endoscopy53巻Suppl.2	極細径内視鏡を用い膀胱ガイドワイヤー法による胆管深部挿管を行った一症例	会議録／症例報告	石飛裕和、石田健朗、岡本和久、小川竜、阿南重郎
2012年1月	静脈経腸栄養27巻1号	診療所通院患者に対するサプリメントの使用実態調査	会議録	甲原芳範、管聰、中野広美、飯塚升美、北村洋子、中村朋子、大屋ジュリエッタゆり
2012年1月	静脈経腸栄養27巻1号	東日本大震災を経験した施設から学んだ事管理栄養士としての防災対策の見直し	会議録	中野広美、管聰、甲原芳範
2012年1月	静脈経腸栄養27巻1号	アバンド使用期間と非使用期間における同一患者の褥瘡治癒について	会議録／症例報告	管聰、甲原芳範、中村朋子、中野広美、北村洋子、飯塚升美
2012年1月	静脈経腸栄養27巻1号	JSPEN認定教育施設としての当院の取り組みと研修生のその後の状況	会議録	中野広美、管聰、甲原芳範

時期	書籍名	タイトル	論文種類	著者
2012年1月	静脈経腸栄養27巻1号	PEG症例における嚥下性肺炎の危険因子の検討（第2報）	会議録	管聰、甲原芳範、中野広美、北村洋子、飯塚升美
2012年1月	静脈経腸栄養27巻1号	酸化マグネシウム服用患者における血清マグネシウム濃度の検討	会議録	北村洋子、甲原芳範、管聰
2012年1月	静脈経腸栄養27巻1号	経管栄養中の難治性下痢に対するココアの有用性と注意点	会議録／症例報告	飯塚升美、管聰、甲原芳範
2012年5月	静脈経腸栄養27巻3号	大分県内のNSTへの取り組みと加算についての状況	会議録	中野広美、管聰、甲原芳範
2013年1月	静脈経腸栄養28巻1号	訪問診療開始時の低アルブミン血症に関する因子の検討	会議録	甲原芳範、管聰、中野広美、飯塚升美、北村洋子、大屋ジュリエッタゆり
2013年5月	日本透析医学会雑誌46巻	複数の抗結核薬に対して副作用が現れた血液透析患者の1例	会議録／症例報告	増永義則、村上圭太、首藤崇伸、永井克徳、黒木貴之、阿南成美、渡辺加代、塙原美恵子、伊藤康子
2013年6月	NutritionCare 6巻6号	スムーズなNST運営のコツと加算対象症例抽出のポイント	解説	中野広美
2013年9月	日本消化器内視鏡技師会会報51号	嚥下内視鏡と内視鏡技師の関わり	会議録	畠田直子
2014年1月	静脈経腸栄養29巻	病院NSTによる老人介護施設職員への施設訪問型栄養勉強会の試み	会議録	中野広美、甲原芳範、管聰、門柳里奈
2014年1月	静脈経腸栄養29巻	PEG-J栄養で嘔吐を繰り返す症例に対するデバイスの工夫	会議録	管聰、甲原芳範、中野広美、姫野信治
2014年1月	静脈経腸栄養29巻	誤嚥性肺炎症例対策で専門的口腔ケアが最も有効であった一例	会議録	管聰、甲原芳範、姫野信治、中野広美
2014年1月	静脈経腸栄養29巻	訪問診療開始1年後に血清アルブミン値が低下する要因についての検討	会議録	甲原芳範、管聰、中野広美、姫野信治
2014年1月	静脈経腸栄養29巻	訪問診療の継続と予後に訪問開始時の血清アルブミン値が関与する	会議録	甲原芳範、管聰、中野広美、姫野信治
2014年1月	静脈経腸栄養29巻	NSTに関わる看護師が増えないのは何が問題なのか？（NSTへの意識調査から見えてきたもの）	会議録	飯塚升美
2014年1月	静脈経腸栄養29巻	海藻のクロメ摂取が2型糖尿病患者の血糖値や血清インスリン濃度に及ぼす影響	会議録	中野広美、甲原芳範、管聰

関愛会学術集会 ※★は最優秀賞（最優秀演題選定は第3回まで行った。）

発表内容	発表者	職種	部署
第1回（2007/8/21）			
★食事姿勢のアプローチ	閔 隆行	作業療法士	佐賀関病院リハビリテーション室
独居高齢透析患者の体重管理の取り組み	渡辺 加代	看護師	佐賀関病院透析室
HDF 施行のより痒みが改善した一症例	首藤 崇伸	臨床工学技士	佐賀関病院透析室
簡易体圧測定器を使用したポジショニングの取り組み	上本 裕子	看護師	佐賀関病院褥瘡委員会
薬物によって引き起こされる悪夢等発生メカニズム	河野 泰三	薬剤師	佐賀関病院薬局
当院におけるNSTアウトカム	管 聰	医師	佐賀関病院NST
末梢静脈留置カテーテルが原因と疑われたカンジダ血症の2例	管 聰	医師	佐賀関病院医局
第2回（2008/2/27）			
「個」と「環境」で患者をとらえるMSWの有用性について	玉井 進	社会福祉士	佐賀関病院地域連携課
回復期リハ病棟における職場復帰へのアプローチ	武田 義弘	理学療法士	佐賀関病院リハビリテーション室
★デイケアにおけるパワーリハビリ導入の効果	川野 剛士	理学療法士	こうざきデイケア・リハビリテーションセンターもみの木
各血糖自己測定器の精度管理と比較検討	北村 洋子	臨床検査技師	佐賀関病院臨床検査室
オムツ交換の検討から布オムツの一部廃止を試みて	岩川 健志	介護福祉士	佐賀関病院3階病棟
佐賀関病院禁煙外来 開設後の結果と今後の課題	前田ヒトミ	看護師	佐賀関病院外来
アイス棒ジュースを用いた嚥下訓練法の検討	飯塚 升美	看護師	佐賀関病院NST

発表内容	発表者	職種	部署
第3回（2008/8/27）			
佐賀関病院における訪問リハ事業の展開	首藤 康弘	理学療法士	佐賀関病院リハビリテーション室
ひまわりリハビリ実施状況～デイサービスで何故リハビリが必要か？	橋本 理沙	作業療法士	佐賀関病院リハビリテーション室
脳卒中片麻痺患者の慢性期における再歩行獲得への取り組み～住み慣れた地域での在宅生活について～	川野 剛士	理学療法士	こうざきデイケア・リハビリテーションセンターもみの木
ひまわりにおける利用者満足度調査から	亀井千鶴子	介護福祉士	関愛会通所介護事業所
接遇及び苦情の分析	房前 匠	看護師	佐賀関病院2階病棟
栄養指導、地域栄養教室の現状と問題点	中野 広美	管理栄養士	佐賀関病院給食室
★佐賀関診療所における2年間の訪問診療の取り組みと課題～特に在宅での看取りを経験して～	佐藤 直美	看護師	佐賀関診療所
第4回（2009/2/13）			
当院における退院後追跡調査の試み	加藤 順子	理学療法士	佐賀関病院リハビリテーション室
意思疎通困難な患者様の看護、リハビリを通じて～経管栄養から経口摂取の自立まで～	荒田 友紀	看護師	佐賀関病院3階病棟
回復期リハビリ病棟の取り組み～音楽レクに回想法を用いて～	渡辺 美佳	介護福祉士	佐賀関病院3階病棟
こうざきクリニックともみの木におけるエコ活動の取り組みとその結果について	高橋 春美	介護福祉士	こうざきデイケア・リハビリテーションセンターもみの木
特別講演「患者の立場から医療・福祉職にのぞむもの」	日本リウマチ友の会大分県支部 支部長 飛河 克子先生		
第5回（2009/8/7）			
リハ助手によるレクレーション～生き活き俱楽部活動～	幸 美由紀	介護福祉士	佐賀関病院リハビリテーション室
当院の診療情報管理業務について	小橋 敦史	診療情報管理士	佐賀関病院診療情報管理室
リフレイミングアプローチを用いた援助	久保太一郎	介護支援専門員	関愛会居宅介護支援事業所
経鼻栄養チューブ挿入時の位置確認～pH測定をチューブ挿入時に取り入れて～	姫野 未央	看護師	佐賀関病院2階病棟
クロメ朝食摂取の血糖およびインスリン反応への効果	中野 広美	管理栄養士	佐賀関病院NST
病棟における転倒転落事故の傾向	村上 圭太	臨床工学技士	佐賀関病院医療安全委員会
透析室におけるQuality Indicatorの測定	村上 圭太	臨床工学技士	佐賀関病院透析室
第6回（2010/2/23）			
回復期リハビリテーション病棟入院料1の施設基準管理手法	西村 喜江	医療事務	佐賀関病院医事課
身体抑制の使用に対しての見直し	内田 育男	介護福祉士	佐賀関病院3階病棟
認知症ケアにおけるOTの関わり～チームアプローチを通して～	土井脇健太	作業療法士	佐賀関病院リハビリテーション室
デイケアもみの木における2008年度利用者のリハビリ効果	千葉 将司	理学療法士	こうざきデイケア・リハビリテーションセンターもみの木
回復期リハビリ病棟の取り組み	姫野 良子	看護師	佐賀関病院3階病棟
当院における嚥下造影検査での被ばく線量の検討	小野 泰司	放射線技師	佐賀関病院放射線科
生きた看護が見える記録を目指して～看護計画マニュアル作成から活用・評価にいたるまで～	高橋 悅子	看護師	佐賀関病院2階病棟
第7回（2010/9/15）			
待ち時間改善への取り組み	川口 智子	医療事務	佐賀関病院医事課
当院の死因統計について	小橋 敦史	診療情報管理士	佐賀関病院診療情報管理室
デイサービス・デイケア利用者への栄養指導に加え利用者家族への栄養指導の試み	門柳 里奈	管理栄養士	佐賀関病院給食室
当院における透析液清浄化への取り組み	永井 克徳	臨床工学技士	佐賀関病院透析室
エンゼルケアのマニュアル作成を試みて	藤澤 定子	看護師	佐賀関病院2階病棟
第8回（2011/2/23）			
訪問診療の現状～佐賀関診療所～	松本 一世	医療事務	佐賀関診療所医療事務
病棟内での生活騒音を調査し音環境を考える	曾根原まどか	看護師	佐賀関病院2階病棟
人生活き生き道場道場開きから1年が経過して	高橋 稔直	介護福祉士	こうざきデイケア・リハビリテーションセンターもみの木
モジュラー型車椅子の導入効果	大野 寛幸	理学療法士	佐賀関病院リハビリテーション室
上部消化管内視鏡検査における咽頭麻酔の比較検討	畠田 直子	看護師	佐賀関病院外来

発表内容	発表者	職種	部署
上部消化管内視鏡検査における咽頭麻酔の比較検討	畠田 直子	看護師	佐賀関病院外来
経腸栄養から経口摂取が可能となり急激にADL向上した一事例	岩川 健志	介護福祉士	佐賀関病院3階病棟
病院の療養環境について 一快適な入院環境を目指す	増永 義則	医師	佐賀関病院医局

第9回 (2011/9/7)

訪問診療におけるMSWの関わり	工藤 真一	社会福祉士	佐賀関病院地域連携室
JSPEN認定教育施設としての当院の取り組みと研修生のその後の状況	中野 広美	管理栄養士	佐賀関病院栄養室
配薬業務の意識調査からみられる今後の課題 ～2F病棟の配薬業務でのインシデント・アクシデントの発生について～	幸地 力哉	看護師	佐賀関病院2階病棟
夜間の尿漏れに対する負担軽減作戦	新家 政代	看護師	佐賀関病院3階病棟

第10回 (2012/8/29)

認知症サポーター養成講座	原口 和之	介護支援専門員	高齢者介護施設ひまわり
小児科の患者様が携帯やPCで順番を取れるシステムを導入して	山内登代美	看護師	三重東クリニック
共に考え、共に感じ、共に歩む ～生活行為向上マネジメントを利用した事による患者様との目標共有～	高見 裕也	作業療法士	佐賀関病院リハビリテーション科
こうざきクリニック訪問診療の現状	甲原 芳範	医師	こうざきクリニック
統一した口腔ケアを目指して	尾野奈津美	看護師	佐賀関病院リハビリテーション室

第11回 (2013/2/27)

平成23、24年度の転倒転落の現状報告と転倒転落防止フォーラム研修報告	幸地 力哉	看護師	佐賀関病院転倒転落委員会
誤薬ゼロ作戦展開中～確認は飲ませる瞬間までもう1回！～	加口 美香	看護師	佐賀関病院3階病棟
当院がDMAT指定病院になったことの意味を考える	池田 弘美	看護師	佐賀関病院DMAT
関愛会における地域包括ケアの取組みについて	赤嶺 圭司	介護福祉士	関愛会通所介護事業所
口腔ケアチームの活動について	原 多加子	歯科衛生士	佐賀関病院NST口腔ケアチーム
日常業務の改善～小さな事からコツコツと活用しやすいマニュアル作成～	小田 陽子	看護師	佐賀関病院2階病棟

第12回 (2013/8/28)

信頼の生まれる送迎～笑顔の架け橋を～	小原 直也	介護福祉士	関愛会通所介護事業所
エンゼルケアのマニュアル作成後の効果と問題点の検討	江川 敦子	看護師	佐賀関病院2階病棟
海藻のクロメ摂取がII型糖尿病患者の血糖値や血清インスリン濃度に及ぼす影響	中野 広美	管理栄養士	佐賀関病院栄養室
患者様の笑顔のために～リハ助手の3年間の取り組み～	宮崎 弥生	介護助手	佐賀関病院リハビリテーション室
夜間の転倒・転落ゼロを目指して ～排泄パターンを知ることで得られたこと～	内田 昭彦	介護福祉士	佐賀関病院3階病棟
こうざきクリニック在宅リハビリテーション室における業務改善について	川野 剛士	理学療法士	こうざきクリニック在宅リハビリテーション室
関愛会第2ブロック・新しい在宅医療への取り組み	高橋 勝	社会福祉士	関愛会第2ブロック

第13回 (2014/2/26)

特別講演「移植医療について」	公益財団法人 大分県臓器移植医療協会 大分県移植コーディネーター 小野美代子先生		
筋力を測定すること	川江 章利	理学療法士	佐賀関病院リハビリテーション室
けんかくボトル®を用いた簡易懸濁法の経管投与方法を導入して	高橋 悅子	看護師	佐賀関病院2階病棟
誤嚥性肺炎発症率の検討と摂食機能療法チームの取り組み	黒田 明子	医師	佐賀関病院医局
6分間歩行テストについて	首藤 康弘	理学療法士	佐賀関病院リハビリテーション室
自立した生活を支援するために～海風での支援～	佐々木智則	介護福祉士	有料老人ホーム海風

第14回 (2014/8/27)

はじめまして！せきの郷です !! 一尺屋の福祉拠点として	加藤 直子	介護支援専門員	介護老人保健施設せきの郷
配膳・配薬方法の見直しによる成果～誤薬によるフィッシュへの影響	右田 翼	看護師	佐賀関病院3階病棟
高齢者におけるCONUTの検討	小野 亮介	臨床検査技師	佐賀関病院検査室
視点と連携でリハビリテーションが変わり、そして生活が変わる!	川野 剛士	理学療法士	こうざきディケア・リハビリテーションセンターもみの木
当院の医科歯科連携の取り組み	原 多加子	歯科衛生士	佐賀関病院摂食機能療法チーム
フィッシュ哲学導入後の経過報告	赤峰 寿子	看護師	看護部
患者満足度調査から見えた今後の課題	嶋村 由香	看護師	佐賀関病院外来

新聞記事で見る
関愛会の10年

※記事の使用については、発行元である大分合同新聞社に「著作物利用申請」を行い、許可を頂いています。

佐賀関町と大分市との合併協議に伴って民営化が決まった町立国保病院は、同病院の医師団が民営化病院を運営する。医師団は十五日までに医療法人の認可に必要な手続きをすべて終え、医療法人「関愛会」を設立した。町立病院は六月三十日で廃止され、七月一日から関愛会が運営する。

会の役員は副院長だった長松宣哉氏ら四人の医師。いずれも十三日付で町を退職した。会は町内関の古宮埋め立て地に新病院の建設を計画しており、八月までに着工。来年十二月ごろの完成を目指す。

佐賀関町立病院について町は町立病院について町は、当初、老朽化した建物を公設民営で建て替える計画だったが、合併協議で大分市側が「市立病院としない」とする考え方を提示。協議は難航したが、昨年八月、民営化の方針で決着した。

佐賀関町と大分市との合併協議に伴って民営化が決まった町立国保病院は、同病院の医師団が民営化病院を運営する。医師団は十五日までに医療法人の認可に必要な手続きをすべて終え、医療法人「関愛会」を設立した。町立病院は六月三十日で廃止され、七月一日から関愛会が運営する。

長松医師は「民営化に

その後、受け皿となる民間医療機関を募集。二月、長松医師は「民営化に向けた手続きが終わり、新病院建設に動きだせる準備が整った」としている。

（2004.4.16 大分合同新聞 朝刊 12面）

新病院 来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

新病院

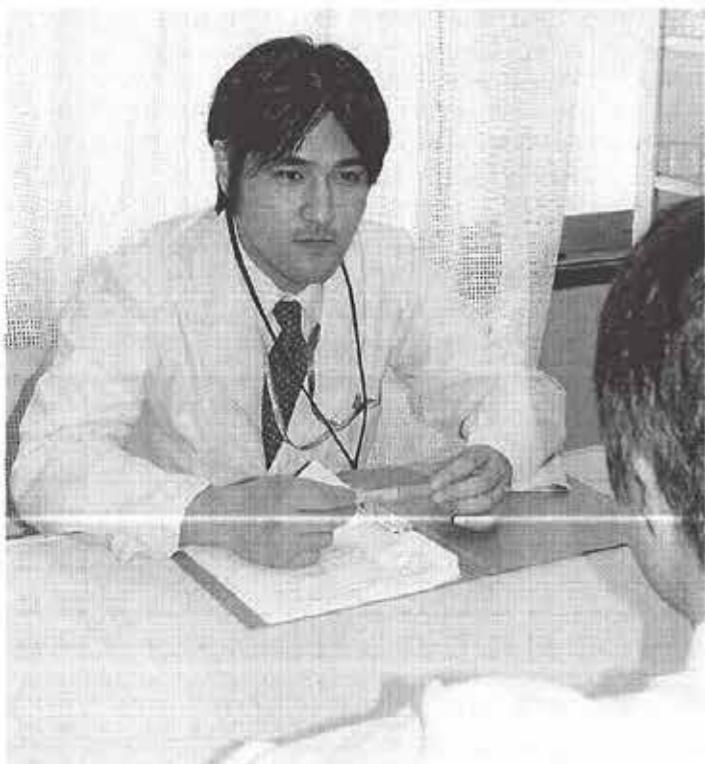
来年12月完成目指す

佐賀関町立病院

医療法人「関愛会」を設立 民営化手続き終了

医療ソーシャルワーカーは医療機関や福祉や在宅療養への準備などに勤務し、社とも手伝う。云福祉の専門家として、患者や家族の経済的、社会的な問題に就きたい」と社会福祉の解決を援助。関係機社士の資格を取得。そ

佐賀関病院の高橋さん



精力的に業務に当たる高橋勝さん

患者、家族の心配事解消

心強い 医療ソーシャルワーカー

七月から民営化された佐賀関病院（佐賀関町）で、患者や家族のサポートをする医療ソーシャルワーカーが配置された。町出身の高橋勝さん（30）で、前身の町立病院時代にはなかつた職種。支援した回数は二ヶ月ですでに三百件を超えており、「存在感を発揮して医療ソーシャルワーカーという機能を地域に根付かせたい」と精力的に業務に当たっている。

支援、着実に浸透

医療ソーシャルワーカーは医療機関や福祉や在宅療養への準備などに勤務し、社とも手伝う。云福祉の専門家として、患者や家族の経済的、社会的な問題に就きたい」と社会福祉の解決を援助。関係機社士の資格を取得。そ



最新の医療機材を導入した待望の新拠点

大分市関の医療法人「関愛会」（長松宣哉理事長）が運営する佐賀関病院の新しい病院が完成した。八日、記念式典をし、十九日から新病院で診療を始める。新病院はこれまでの病院の近くに新築された。鉄筋コンクリート四階建て、延べ約九千平方メートル。ベッド数は九十床で十二科ある。常勤八人、非常勤六人の医師で治療に当たる。

最新医療機材を導入

し、患者の情報を素早く伝達するコンピューター・システムを整えている。これまでより広くなった病院内には、リハビリテーション室や透析室、さまざまな相談に応じる総合医療福祉相談室などを備えている。四階には展望浴場もある。

現行の一尺屋診療所、十月に開設したこうざき診療所に続き、在宅医療の拠点を目指す佐賀関診療所（平屋、約千二百平方米）も併設した。新病院と同診療所を合わせた総事業費は十四億八千万円。

佐賀関病院の前身は旧佐賀関町立病院。旧佐賀関町と大分市の合併前に、昨年七月に民営化された。

きょう
記念式典

19日から診療を開始

佐賀関病院が完成

(2004.8.31 大分合同新聞 朝刊 18面)

常勤内科医が不在になる竹田市の竹田医師会病院に、へき地医療拠点病院である大分市の佐賀関病院が六月から週一回、代診医として医師一人を派遣することが三十日、決まった。竹田医師会病院は内科医不足により、六月から救急病院の告示を撤回する。地域医療が危機的な状態にある中、わずかながらだが、改善の方向に進む。

竹田に週1回代診医

佐賀関病院から

院、宇佐高田医師会病院、公立おがた総合病院、大分県済生会日田病院、津久見市医師会立津久見中央病院、健康保険南海病院、県立三重病院、臼杵市医師会立二ツモス病院、佐賀関病院、の計10病院。

(2007. 5.31 大分合同新聞 朝刊 29面)

伟大的救世“医”



竹田市の竹田医師会病院に既に一人の代診医を派遣している佐賀関病院（大分市）から、さらに代診医が一人、追加派遣されることが二日、決まった。医師不足により救急病院の看板を下ろして一ヶ月。徐々に支援が広がっており、代診医の追加派遣で週三日は診療応援体制が整うことになる。

良天劣果によると、代医費としている。

診医は内科医で、今月から毎週金曜日に派遣する。竹田医師会病院は六月から常勤内科医が不在になつた。医師確保の手段として、へき地医療拠点病院から代診医派遣を受けるのに必要な手続きを している。これに基づき、六月から、県内のへき地 医療拠点病院の一つの佐賀関病院が内科医一人を バンク」に登録していた医師一人（非常勤）が週一回の診察を始めている。国の「緊急臨時の医師派遣システム」を通じて、日本医科大学（東京）から半年間、常勤医として救急医（内科）が派遣されることも決まつてい る。ほかに、県が医師に求人情報を提供し、就職をあっせんする「ドクターパンク」に登録していた医師一人（非常勤）が週一回の診察を始めている。日本の「緊急臨時の医師派遣システム」を通じて、日本医科大学（東京）から半年間、常勤医として救急医（内科）が派遣されることも決まつてい る。

佐賀関病院が2人目

竹田 医師会病院に内科医

SEKIAIKAI

三重東クリニックあすオープン

豊後大野市三重町小坂に
9月1日から、「関愛会三重
東クリニック」(宇都宮健志

院長)がオープンする。26
日、現地で落成式があった。
同クリニックは、県立三



(上)三重町小坂にオープンする三
重東クリニック (下)現地で落成式

重病院で勤務していた医師
3人が中心となる。スタッフ
は計16人。

診療科は内科と小児科。
診療受付時間は【月、火、
木、金】▽内科 午前8時
半～正午、午後1時半～同
5時▽小児科 午前8時半
～正午、午後3時～同6時
半【水、土】▽内科・小兒
科 午前8時半～正午(午
後は休診)。日曜、祝日は
休診。

今後、訪問診療の実施を
計画している。

(2010.8.31 大分合同新聞 朝刊 14面)



「写真で見る歴史展」
の準備をする職員

プロレスやサンバ

25日に佐賀関病院祭

大分市の佐賀関病院は
二十五日、「佐賀関病院
祭りげんきフェスタ20
08」を開催する。地域
との交流を深める目的で
初めて企画。会場は同病
院と、敷地内の佐賀関診
療所、高齢者介護施設「ひ
まわり」で、午後1時半
から多彩なイベント
がある。

ひまわりの駐車場にメ
インステージを設置し、
特設リングで「ちびっこ
レスリング教室」(同三
時半)、プロレスリング
FTOの試合(同四時)、

イベントを準備していま
す。たくさん的人に喜ん
でいただきたい」と実行
委員会の高橋勝さん(四
〇)。

「病院を身近に感じる
「病院の歴史展」を開く。
小学生の絵画展、診療所
では「写真で見る佐賀関
病院祭」を開く。

上国のある子どもた
を集める。病院では、
小学校の絵画展、診療所
では「写真で見る佐賀関
病院祭」を開く。

周辺では、職員や佐賀
関商工青年部が模擬店
を出す。ま

た、発展途

ブラジルサンバ(同五
時)などが
ある。ステージ
周辺では、職員や佐賀
関商工青年部が模擬店
を出す。ま

まで。

主催する第4回地域医
療貢献奨励賞に、佐賀
関病院(大分市)など
を運営する関愛会の長
松宣哉理事長(56)が選
ばれた。

同賞は、長年にわたり
地域医療の確保と
向上、住民の健康福祉
の増進に貢献があると
された。介護施設や老人ホ
ームも運営し、地域包

括弧事

業団と自治医科大学が
主催する第4回地域医
療貢献奨励賞に、佐賀
関病院(大分市)など
を運営する関愛会の長
松宣哉理事長(56)が選
ばれた。

同賞は、長年にわたり
地域医療の確保と
向上、住民の健康福祉
の増進に貢献があると
された。介護施設や老人ホ
ームも運営し、地域包

括弧事

業団と自治医科大学が
主催する第4回地域医
療貢献奨励賞に、佐賀
関病院(大分市)など
を運営する関愛会の長
松宣哉理事長(56)が選
ばれた。

同賞は、長年にわたり
地域医療の確保と
向上、住民の健康福祉
の増進に貢献があると
された。介護施設や老人ホ
ームも運営し、地域包

括弧事

(2008.10.23 大分合同新聞 朝刊 10面)

関愛会の長松理事長

地域医療貢献奨励賞



長松宣哉理事長

して都道府県から推薦
があった医師を対象に
している。県内からは
初の受賞。2月19日に
東京で表彰式があつ
た。長松理事長は「地域
医療貢献奨励賞に、
地域医療の発展に貢
献した医師を表彰さ
れては喜ばしいこと。
と。スタッフに恵まれ、
運営も順調にいって
いる。今後も佐賀関
は、もちろんのこと、大
分県のへき地医療の
支援、充実に協力して
いきたい」と話してい
た。

長松理事長は竹田市
出身。自治医科大学卒業
後、県立三重病院な
どを経て旧佐賀関町立
病院へ。1990年から
副院長。2004年、大分市
との合併協議で民営化され
る。

県内からは初

「へき地支援 今後も」

市三重町など5カ所で
診療所を開設し、当初
4人でスタートした医
師団は現在15人に増え
た。介護施設や老人ホ
ームも運営し、地域包

括弧事

業団と自治医科大学が
主催する第4回地域医
療貢献奨励賞に、佐賀
関病院(大分市)など
を運営する関愛会の長
松宣哉理事長(56)が選
ばれた。

同賞は、長年にわたり
地域医療の確保と
向上、住民の健康福祉
の増進に貢献があると
された。介護施設や老人ホ
ームも運営し、地域包

括弧事

業団と自治医科大学が
主催する第4回地域医
療貢献奨励賞に、佐賀
関病院(大分市)など
を運営する関愛会の長
松宣哉理事長(56)が選
ばれた。

同賞は、長年にわたり
地域医療の確保と
向上、住民の健康福祉
の増進に貢献があると
された。介護施設や老人ホ
ームも運営し、地域包

括弧事

(2011.3.5 大分合同新聞 朝刊 19面)

(上)市国民健康保険直営清川診療所に隣接する清川保健センター。看板が外され、関愛会清川診療所への準備が進む
(下)開所式に臨む関係者



清川診療所

民営化方針により、豊後大野市清川町の市国民健康保険直営清川診療所が4月1日で廃止され、関愛会（長松宣哉理事長）へ運営が引き継がれる。新しい名称は「関愛会清川診療所」。26日、同診療所で開所式があった。

清川診療所は、旧清川村時代に、無医村になるのを防ぐため開設された。自治医大から医師の派遣を受けていたが医師確保が困難になり、2007年から同市三重町の医療法人が受託。今年1月からは関愛会が対応している。

関愛会運営 「一緒に盛り上げて」

4月1日から「清川診療所」は、関愛会が運営する三重東クリニックの医師ら5人で対応。月、火曜には訪問診療を実施する。

1日から民営化

応していた。診療所の民営化は、市公立医療施設評価委員会が打ち出した方針。その後、市民健康保険運営協議会が民営化の手法を答申している。

26日は関係者約50人が出席した。長松理事長はあいさつで、自治医大出身の医師が清川診療所に関わってきた経緯を説明。「へき地医療は医師を形成するバックボーンになる。もし清川が厳しくなれば、うちで引き受けられる考え方だ。新しい診療所と一緒に盛り上げてほしい」と述べた。

4月1日からの「清川診療所」は、関愛会が運営する三重東クリニックの医師ら5人で対応。月、火曜には訪問診療を実施する。

(2011.3.28 大分合同新聞 朝刊 11面)

豊後大野市清川町で唯一

関愛会

豊後大野市清川町の清川診療所を運営する関愛会（大分市、長松宣哉理事長）は、11月1日から「きよかわりハビリテーションセンターもみの木」を同診療所に併設し、開所する。10月28～30日には、施設を自由に見学できる内覧会を開く。



診療所に併設

リハビリ施設 1日開所

関愛会は、旧清川村時代設の開設は、地域貢献目として当初から計画して開設された診療所の運営的として当初から計画してを、ことし4月に引き継いだ。リハビリに特化した施設の開設は、筋肉に小さな負荷を与えて力をつけており、町内では唯一の通所だ。リハビリテーション事業所

中心に提供する。トレーニングマシンやウォーターベッド、入浴訓練用のユニットバスなどの設備がある。利用定員は30人。営業時間は平日の午前8時半から午後5時半まで。スタッフは理学療法士、介護療法士ら3人で、順次人員を増やす予定という。

きょうから内覧会

内覧会は、3日間とも午前9時から午後5時まで。30日午後1時からは、サクソホンの演奏会がある。関愛会では「施設でのすべての動作が日常の動きにつながるよう工夫している。他の事業所との連携も進め、サービス向上に努めたい」としている。

(2011.10.28 大分合同新聞 朝刊 22面)

災害派遣医療チーム「大分DMA-T」新たに大分市内の2病院が加わることになり24日、県庁で指定証の交付式があった。指定は計20病院となり、発足時に掲げた目標数を達成した。

今回指定されたのは▽大分医療センター▽佐賀関病院の2病院。隊員は新たに7人が加わり、計242人となつた。代表者に指定証を手渡し、

「大分DMA-T」交付式目標の20病院達成



大分DMA-Tの指定証を受け取る
病院の代表者=24日午前、県庁

「新たな指定を頼もしく感じている」とあいさつ。大分医療センターの福山誠一医師が「事故、災害現場での救命活動に協力したい」と決意を述べた。大分DMA-Tは災害時の迅速な救急活動を目的に2008年2月、県内の14病院で発足。09年3月に4病院が加わった。今年9月末までの出勤は139回。3月には東日本大震災を受け、初めて県外に出動した。県医療政策課は「20病院に増えたことで、大規模災害により対応でき、地域ごとに迅速に派遣できるようになる」と強調。今後は、人員に余裕を持たせ派遣しやすくなるため、隊員数の増加を促していくという。

(2011.11.24 大分合同新聞夕刊11面)

坂ノ市にクリニック開所

大分市の社会医療法人「関愛会」（長松宜哉理事長）は12月1日、市内坂ノ市中央に診療所「坂ノ市クリニック」（管院長）を開所する。訪問診療に力を入れる他、地域の医療、福祉関係者とのネットワークづくりを進めるため所内に「在宅医療連携センター」を設置。管院長（44）は「地域の在宅医療を支える拠点とし、地域包括医療を進めたい」としている。



（延べ床面積1335平） 建物は鉄筋3階建て 方筋で、19床。診療科目は内科、外科、消化器内科。

訪問診療に力

22日から
一般内覧会

訪問診療に力

セントラルワーカー玉井進さん（37）は「患者の中には在宅医療を望むが手続きが複雑だらうと諦める人もいる。患者や家族にとってより良い選択ができるよう関係者と連携していきたい」と話している。

一般内覧会を22～24日のいずれも午前9時半から午後4時まで開く。問い合わせは診療所（☎ 097・574・7722）

12月1日に開所する診療所「坂ノ市クリニック」

在宅医療の拠点に

セントラルワーカー2人を配す。訪問診療のニーズが増す中、同法人は佐賀関病院をはじめとする6医療機関で診療を実施している。診療所の開所後は同地区にある訪問診療専門のクリニックのぞみを廃止し、患者約180人を引き継ぐ。

清川町ただ一人の医師 地域医療に貢献



地域医療貢献奨励賞を受賞した、清川診療所長の坪山明寛さん

坪山明寛さん(67)＝大分市＝が、住友生命福祉文化財団(大阪府)の「地域医療貢献奨励賞」を受賞した。坪山さんは「今後も自分を必要としてくれる方に、自分の医療をしていきたい」と話している。

「患者と接し幸せ」

大学医学部の学生を受け入れ育成に取り組んだこと、退職後も地域医療を実践していることが評価された。

坪山さんに奨励賞

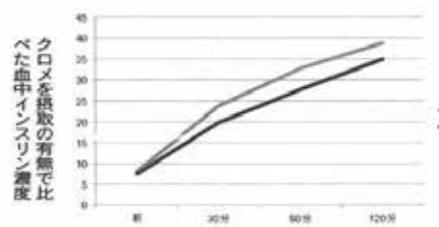
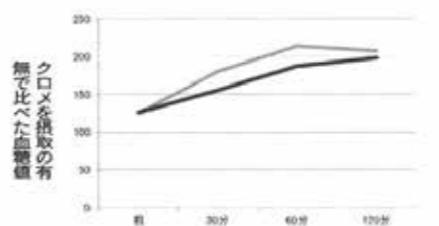
山さんは一管理職の仕事か
長く、当初は1人の臨床医
としてやつていけるか不安
もあった」と打ち明けるが、
「今は患者と接することに
没頭できる毎日で幸せ。学

糖尿病患者対象調査で佐賀関病院

クロメ、血糖値を抑制



糖尿病患者を対象にしたクロメの効果を研究した佐賀開発院の中野広美糖尿病学博士



栄養バランスの取れた食事だが、クロメやオクラ、納豆など粘り気のある食品を継続して摂取することで予防効果が期待できそう。今後は、最適な摂取量を調べてレシピに取り入れたり、粘り成分を抽出し、とろみ材などに活用して飲み込む機能が低下した高齢者の食事などに応用したい」と話した

NSTは医師や看護師、薬剤師、理学療養士など医療スタッフから成るチームで、患者の生活の質の向上や体力回復を目指し口から食事ができるようにしてもらうと、栄養管理に取り組む。佐賀県立病院NSTは、2004年に県内初のNSTとして認定された。

大分市佐賀関の佐賀関病院（長松宣哉理事長）の栄養サポートチーム（NST）は、大分県名産の海藻クロモに血糖値を抑える効果があることを糖尿病（2型）患者を対象とした調査で確認した。2月に横浜市であった静岡経絡栄養学会学術集会で発表した。研究リーダーで管理栄養士の中野広美さんは、「粘り気のある食品は同様の効果があるとみられているので、日頃の食事に一品添えてほしい」と話した。

ロメ(50g)の摂取の有無で二つのグループに分け、食前と食後30分、60分、120分後のインスリン分泌量と血糖値を比較した。その結果、食事直後のインスリン分泌量や血糖値が上昇



体を動かすエネルギー
酸のアドレナリンの血中量を
調整するホルモン（腎臓
で作られるインスリリン）
これがうまく働かないな
精神を調整できなくなる疾患。重症化す
きにインスリリンを作れない「1型」「
糖尿病」に罹る。正常な生活習慣が
必要で、2型もある。患者や介護者



閉校した大分市の「一尺屋」中

学びやが老健施設に

明かりが消えた学校に再び「どらしぃ」が。大分市佐賀関の社会医療法人「関愛会」（長松宜哉理事長）は14日、2001年に閉校した同市「一尺屋」の旧「一尺屋中学校舎」を活用し、介護老人保健施設「せきの郷」を開設する。旧教室を壁で仕切るなどして居室などに改築。地域活性化策の一つとして県内各地で閉校後の校舎利活用が進んでおり、「ぎわい創出とともに住民ニーズの高い福祉拠点」としての活用は注目を集めそうだ。

鉄筋3階の旧校舎は1988年に完成したもの。1階に診察室やリハビリ室（元職員室）、浴室（元技術教室）などを配置した。老健施設がなく、住民は鶴崎地区や白杵市の施設に入所。11年に地区住民から校舎を老健施設として活用し、2、3階にショートステイを設けた。総工費は約2億4千万円。これまで旧佐賀関町内に市は13年に旧校舎を使つた。

福祉拠点として再出発

老健施設がなく、住民は鶴崎地区や白杵市の施設に入所。11年に地区住民から校舎を老健施設として活用し、2、3階にショートステイを設けた。総工費は約2億4千万円。これまで旧佐賀関町内に市は13年に旧校舎を使つた。

（庄亨）

老健施設がなく、住民は鶴崎地区や白杵市の施設に入所。11年に地区住民から校舎を老健施設として活用し、2、3階にショートステイを設けた。総工費は約2億4千万円。これまで旧佐賀関町内に市は13年に旧校舎を使つた。

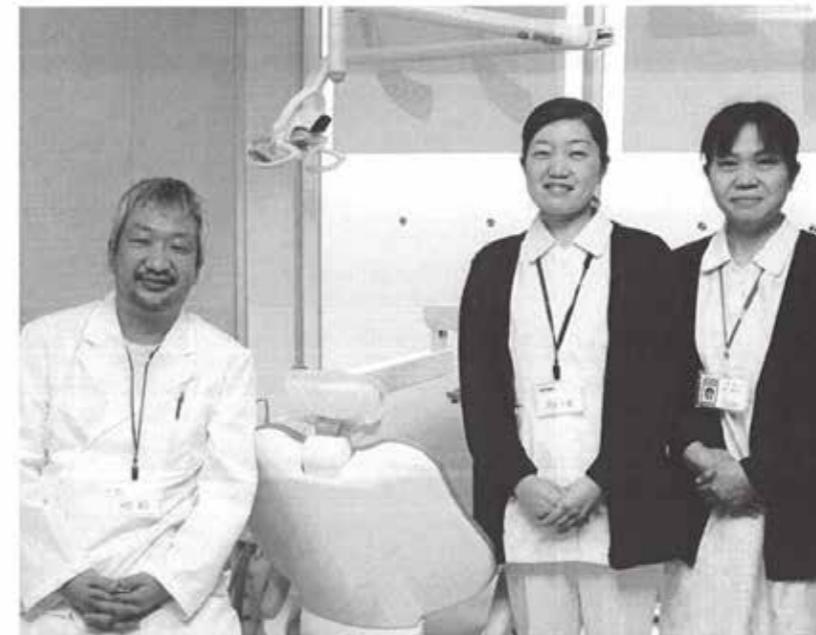
（庄亨）

老健施設がなく、住民は鶴崎地区や白杵市の施設に入所。11年に地区住民から校舎を老健施設として活用し、2、3階にショートステイを設けた。総工費は約2億4千万円。これまで旧佐賀関町内に市は13年に旧校舎を使つた。

（庄亨）

『医歯連携』に期待

佐賀関病院に歯科新設



佐賀関病院で診療を始めた歯科医の仲野貴明さん（左）とスタッフ

仲野さんは同市佐賀関出身。大阪歯科大学を卒業後、大阪府内で勤務医をしていて、28歳で古里に戻り、歯科医の母・都さん（89）と共に地域医療を支えてきた。大阪時代と比べて新しい治療技術の収得が難しくなっていたが、地域に密着した診療に徐々に関心を深めた。「住民が母を慕って診察に訪れる姿を見て責任の重さ、やりがいを感じた」。同時に「高齢患者が複数の病気を併発すると、自分の診察範囲だけではカバーできない症例が増えてくる」と感じていたという。

加えて急傾斜のため階段が多い地形が災いして診察に来られない患者も増加。訪問診療や送迎に力を入れた。入院治療医の母・都さん（89）と共に地域医療を支えてきた。大阪時代と比べて新しい治療技術の収得が難しくなっていたが、地域に密着した診療に徐々に関心を深めた。「住民が母を慕って診察に訪れる姿を見て責任の重さ、やりがいを感じた」。同時に「高齢患者が複数の病気を併発すると、自分の診察範囲だけではカバーできない症例が増えてくる」と感じていたという。

（庄亨）

地元医・仲野さん担当

地域密着にやりがい

大分市佐賀関の佐賀関病院（増永義則院長）は4月から歯科を新設し、長年にわたり地元で歯科医院を開業していた仲野貴明さん（48）が担当医を務めている。医学と歯学が連携することで治療と予防医療の向上につながるとされる「医歯連携」に住民の期待が集まっている。



10周年記念誌の編纂が正式に決まったのは今年に入ってからである。

当院にとって記念誌の編纂は初めての作業となった。開設当初から関連施設との連携に苦労し情報を集約する行動力、編纂内容を意図したとする企画力、さらには調整能力と時間を惜しみなく費やす事に無頓着であると考えた時に第二ブロックの高橋事務長しかいないと思い、さらにその元で協力体制が短期間でき、しかも柔軟的に対応できる人となれば、玉井君・吉田君が適任である。私も坂ノ市にいる関係からの打ち合わせも容易でスピードも図れる。そういう理由で坂ノ市クリニックのメンバーに記念誌の編纂をお願いしようということは早くから考えていた。(本人達は楽しい地域イベントの方が希望だったのかもしれないが。)編纂方針さえ決めればその方針に沿つたものを作成してくれるメンバーだという自信もあった。内容の審議については、創立から今日ま

での歴史を振り返ることで関愛会の理念である

「地域包括医療の推進」「自己研鑽」「地域貢献」が読み取れるものにして欲しいことと、予算は1000冊100万以内という条件をつけただけで、その他のことは基本的には全てお願いした。

本編・資料編を通した全体のテーマを「未来継承」と決めたのは今年の新入社員着任式での理事長より今年度のスローガン「次の10年に向けて地力アップ」を受けてである。現在、発足当時の2倍の職員数を抱え地域包括ケアの完成に向けて走る事ができるのは、2004年逆境の中で長松理事長・増永院長・甲原院長・城副院長の4名の先生が立ち上がり、職員の皆さんが今まで理念の正しさを信じてついてこられた成果である。過去を振り返り記録を保存し未来の者達に引き継いでいくことこそがさらなる成長に繋がるとの理事長の言葉に私も同感である。

これまでの過去10年を振り返ると高齢化と人

口減少が進行していく佐賀関地域で産声を上げた一つの病院を成長させていくためには地域の要請に応える形での新規事業展開は不可欠であったと思う。採算を考えると当初より難しいと考えられる事業所もあったが、医者としての使命感やモラルがそれを許さなかったのだろう。診療報酬改定や介護保険制度の見直しなど必ずしも外部環境はいいとはいえない荒波に立ち向かいお互いに声を出しながら協力し、オールをこぎながら進んできたことに我々の学ぶべきことは多く、新たな漕ぎ手としての覚悟も必要である。

記念誌を編纂することの目的の一つは、次世代を担う若い職員達に病院の真の姿を継承することであり、創立の精神や培ってきた文化・風土を分かりやすく伝え、感動と感謝と誇りを持ってもらうことである。

ご祝辞をいただいた大分県知事、大分市長、豊後大野市長、大分銀行頭取をはじめ、ご寄稿いただいた方々、写真や新聞記事を提供頂いた方々にお礼を申し上げるとともに困難な作業に取り組んできた坂ノ市クリニックのスタッフの皆様に改めて感謝申し上げたい。

編纂を終えた安堵感で窓を開けると頬をなでる秋風に、未来を心地よく感じることができたことは私の人生において大きな喜びであった。



社会医療法人 関愛会
法人事務局長
鯨越 英夫

2014年 9月

社会医療法人 関愛会 創立10周年記念誌

2014.10.12 発行
編纂／社会医療法人関愛会創立10周年記念誌編纂班
管聰 高橋勝 玉井進 吉田邦夫
坂ノ市クリニックスタッフ一同
印刷／佐伯印刷株式会社



これからも
地域とともに